

際其他集合（歩兵ニ在テハ一旦先ツ中隊ニ集合シ然ル後大隊ノ集合場ニ至ル）ノ時ニ際シ各隊互ニ妨碍セサルコトニ注意スヘシ此注意ニ關シ要スルトキハ舍營司令官ハ此集合場ノ全部或ハ一部ヲ選定スルコトアリ砲兵ノ警急集合場ハ常ニ砲廠トス

問 警急大集合場トハ如何

答 警報アル時命令ヲ待タズ速ニ聯隊或ハ旅團等ニ集合スヘキ所トス

問 最モ狹縮ノ舍營ニ在テハ舍營司令官ハ特別ノ方法ヲ設ケ靜肅ヲ保持シ喧噪擾亂ヲ防クヲ要ス殊ニ夜間ヲ警ムヘシト之カ爲如何ニスルヤ

答 一、強大ノ風紀衛兵ヲ設ケ屢々巡察ヲ派遣スルコト
二、飲食店等ヲ早ク鎖サシムルコト

三、入夜時刻ヲ早ムルコト

四、井泉ヲ檢知シ之ヲ配當スルコト

五、車馬往復ノ規則及發射ニ關スル事件ヲ速ニ規定スルコト

問 居民敵兵ト共ニ急襲ヲ行フノ虞アル時之カ豫防法ヲ問フ

答 一、嚴罰ヲ以テ居民ヲ脅嚇シ人質ヲ拘留シ炬火若ハ燈火ヲ以テ街衢ヲ照シ家屋ヲ開放セシムル等ノ方法ヲ設クルコト

二、軍隊ハ戰備ヲ嚴ニシ必要ニ應シ警急舍營ヲ爲シ又村落ノ出口ハ開閉シ得ヘキ方法ヲ以テ閉塞シ且村落防禦ノ準備ヲ爲ス

問 非常號音ノ吹奏ハ如何ナル場合ニ於テモ高級古參ノ將校或ハ舍營司令官ノ命令ヲ待ツヲ要スルヤ

答 突然ノ敵襲ニ際シ猶豫セハ大ナル危殆ニ陥ルヘキトキハ各衛兵及將校ハ身ヲ以テ責ニ任シ速ニ非常號音ヲ吹奏セシムルノ職務ヲ有スルモノトス

問 舍營中警報アルトキ下士兵卒ノ動作ヲ述ヘヨ

答 武裝ヲ整備シ先ツ小隊(分隊)毎ニ集合シ然ル後歩兵ハ速ニ其中隊ノ集合場ニ集合ス

問 敵兵急ニ舍營内ニ侵襲シ之カ爲其屬スル部隊ニ集合スル能ハサル者ハ如何ニスルヤ

答 各々其處ニ於テ現在ノ人員相協力シテ防禦スヘシ

問 村落露營ニ於テ其警戒法及内部ノ勤務ハ如何ニスルヤ

答 村落内ニ宿營セシモノハ舍營ニ準シ又近ク村落外ニ露營シタル

部隊ハ露營ノ爲定メタル方法ニ從フモノトス

問 村落露營ニ於テ注意シテ豫防スヘキ諸件ヲ問フ

- 答 一、 暗黒ニ際シ村落内ニ密集ノ舍營ヲ爲ス軍隊ノ混亂
- 二、 兵卒ノ糧ニ人民ノ所有品ヲ使用スルコト
- 三、 水ノ配當ノ困難
- 四、 其他凡テ大兵ノ輻湊ヨリ生スル所ノ混雜

問 休養上露營地ニ必要ナルモノハ何カ

- 答 一、 水ヲ得ルコト容易ニシテ且十分ナルコト
- 二、 其地ノ乾燥ナルコト
- 三、 風雨ノ障礙ヲ得ルコト

問 休養上適當ナル露營地ヲ問フ

答 抑低地ニ在ル草地ハ縦ヒ外見上乾燥ナリト雖夜間露ト濕氣ト

ナ有スルカ故ニ健康ニ害アルコト濕氣ニ異ナラス凡テ健康ニ害アル地ノ露營ハ其兵員ヲ損耗スルコト戰闘ニ於ケルヨリモ甚タシ之ニ反シ乾燥ナル土地或ハ大樹ノ林ハ概ネ露營地ニ適當スルモノトス

問 互寒ノ季節ニ際シ露營ヲ爲ストキ防寒ノ爲ニハ如何ナル注意ヲ要スルヤ

答 一、勉メテ種々ノ木材樹枝等ヲ用ヒテ急造掩蔽ヲ造ルコト

二、土質之ヲ許セハ土地ヲ掘開シテ座床ヲ低クシ其土塊ヲ周圍ニ積ミ以テ寒氣ヲ防クコト

三、縦ヒ天幕ヲ用フルトキト雖土石若ハ雪ヲ以テ圍壁ヲ築クハ防寒ノ爲特ニ必要ノコトナリトス

問 露營ニ於ケル勤務員ヲ問フ

答 一、露營司令官

二、露營日直將校

三、部隊日直將校下士

四、外衛兵

五、風紀衛兵

六、巡察將校

問 露營中下士卒ノ動作ヲ述ヘヨ

答 露營中下士卒ハ露營ノ設備及雜役ニ從事スル間ハ上官ニ對シ敬禮ヲ行フコトナシ故ニ若シ上官ト言ヲ交フルトキハ唯直立若ハ靜止シテ之ニ答フ休憩中モ亦然リ

問 露營中警報アリタルトキ歩兵ハ如何ニ動作スルヤ

答 各自速ニ背囊ヲ負ヒ又銃ノ側ニ至ル但命令アルニアラサレハ銃

ヲ解クヘカラス

問

露營中敵襲アリタルトキ外衛兵ノ動作ヲ述ヘヨ

答 更ニ命令ノ下ルマテ其位置ヲ固守シ要スレハ殊死シテ敵ヲ逆襲ス

第八章 行李

問

小行李及大行李トハ何カ

答 敵ニ觸接スヘキ虞アルトキハ行李ヲ小行李及大行李ニ分割ス小行李ハ軍隊戰鬪間必要ノ物品ニシテ大行李ハ宿營間必要ノ物品ヨリ成ルモノトス

問

小行李ハ如何ナルモノヨリ成ルヤ

答 副馬衛生材料彈藥器具豫備馬ヨリ成ル

問

大行李ハ如何ナルモノヨリ成ルヤ

答 荷物炊具糧秣野戰職工器具豫備蹄鐵豫備被服豫備馬ヨリ成ル

第九章 給養

問

戰地ニ於ケル人馬ノ給養法ヲ問フ

答 一、舍主ノ供給スル糧秣

二、軍隊ノ携行スル糧秣

三、倉庫ノ糧秣

四、軍隊ノ直接ニ徵發スル糧秣

問

軍隊ノ携行スル糧秣トハ如何

答 一、各自携帶スル糧秣

二、大行李糧秣

三、糧食縦列ニ積載スル糧秣

問

各自携帶スル糧秣トハ如何

答 携帶口糧及携帶馬糧ヲ謂フ即チ軍隊屯營ヲ出發スル時ヨリ各自携帶スル所ノ豫備糧秣ニシテ終始必ス携帶スヘキモノトス

問 各自携帶スル糧秣ハ如何ニシテ使用スルヤ

答 此糧秣ハ非常ノ場合ト全ク他ニ給養ノ方法ナク已ムヲ得サル時トニ非ラサレハ之ヲ用フヘカラス而シテ之ヲ用フヘキ時ハ必ス高等司令官ヨリ命令ヲ下スモノトス

問 携帶口糧及馬糧ハ如何ナルモノヨリ成ルヤ又如何ニ之ヲ携帶スルヤ

答 一、携帶口糧ハ精米及副食物若干(甲)若シクハ乾麩麩及副食物若干(乙)ニシテ各自二日分(甲一日分、乙一日分)ヲ携帶シ徒步者ニ在テハ之ヲ背囊(背負袋)ニ乘馬者ニ在テハ之ヲ鞍囊ニ收容スルモノトス

二、携帶馬糧ハ米若干ニシテ各馬一日分ヲ携帶シ乘馬ニ在テハ之ヲ鞍(旅)囊ニ收容シ輓駄馬ニ在テハ適宜ニ積載スルモノトス

問 倉庫ノ糧秣ニ依ル給養トハ如何ナルモノナルヤ

答 軍隊永ク一地ニ駐止スル場合ニ於テ多ク之ヲ用フルモノニシテ軍隊直接ニ倉庫ヨリ糧秣ヲ受領スルモノトス

問 部隊徵發トハ如何

答 師團長其部隊ニ一定ノ地方ヲ指示シ該隊ノ徵發隊ヲ以テ其地ニ就キ糧秣ヲ徵發セシメ又ハ獨立セル一支隊長ノ其部隊ヲ以テ徵發ヲ行フモノヲ謂フ

問 部隊徵發ヲ實施スルニ方リ軍紀ニ就キ指揮官ノ顧慮スヘキ諸件ヲ問フ

答 一、此徵發法ニ在テハ殊ニ精密ノ規則ヲ立テ且至嚴ナル監視ノ下ニ於テ施行スルヲ要ス若シ然ラサルトキハ軍紀忽チ紊亂シ終ニ兵卒ヲシテ徵發搶奪ノ分界ヲ誤ル罪ヲ犯サシムルニ至ルヘシ

二、殊ニ戰鬪ニ依テ占領セル村落等ニ於テハ其ノ徵發動モスレハ暴戻搶奪ニ流レ易シ故ニ嚴重ナル方法ヲ以テ之ヲ禁遏セサルヘカラス

三、徵發ニ際シテハ各個ノ下士卒ヲシテ人民ニ接セシメサルヲ要ス而シテ徵發セシ物件ニ對シテハ之カ證票ヲ附與スヘキモノトス

問 官憲徵發トハ如何

答 野戰倉庫ヲ充實スル爲軍又ハ師團ノ經理部長ヲ以テ徵發ヲ行ハ

シムルヲ謂フ

第十章 衛生

問 補助擔架卒トハ如何及其動作ヲ述ヘヨ

答 平時擔架備ノ教育ヲ受ケタル兵卒ニシテ戰鬪開クルモ中隊ノ列中ニ在リ假繙帶所ヲ開設スルヲ要スルトキニ至リ補助擔架卒ヲ命セラル、モノトス

補助擔架卒ハ其銃ト背囊トヲ假繙帶所ニ置キ白布ヲ右ノ上臑ニ縛シ擔架及繙帶囊ヲ携ヘ戰線ニ前進シ傷者ノ救急及彈搬ニ從事ス

問 假繙帶所ハ如何ナル處ニ選フヲ適當トスルヤ

答 一、假繙帶所ハ成ルヘク敵火ヲ避ケ得ル地ニシテ戰線ニ近接シ交通便利ナルコト

二、葦掩蔽物及他ノ補助材料並ニ傷者ヲ繙帶所又ハ野戰病院ニ

送致スヘキ材料ヲ徵集シ得ヘキ便アル地ヲ選フコト

問 假繙帶所繙帶所及野戰病院等ハ如何ニ標示セララル

ヤ

答 一、假繙帶所及繙帶所ハ赤十字ノ旗ト國旗トヲ併セ植テ其位置ヲ標ス而シテ夜間ハ更ニ赤色ノ燈火ヲ掲ク

二、病院ハ繙帶所ト同一ノ標章ヲ以テ之ヲ標示ス

問 戰鬪間戰友ノ死傷セシ場合看護及送致ニ就テノ心得ヲ述

得ヲ述

答 戰線ニ於テ軍友負傷スル時殊ニ衛生人員其地ニ在ラサル時趨テ是ヲ救助セントスルハ人情ナリ然レトモ此ノ如キハ戰鬪線ヲ薄弱ナラシメ以テ危殆ヲ招クコトアリ故ニ列中ニ在ル下士兵卒ハ將校ノ命令アルニアラサレハ傷者ヲ送致スルコトニ關ス可ラス而シテ

之ヲ送致セシ時ハ躊躇セス戰線ニ復歸シ其ノ送致ノ命ヲ受ケタル上官ニ届告スヘシ

問 戰鬪間負傷セシ者ノ心得ヲ述ヘヨ

答 輕傷者ハ附近ニアル指揮官ノ許可ヲ受ケタル後其彈藥ヲ交付シ銃ヲ携ヘテ單獨ニ退クヘシ

問 中立徽章トハ如何ナルモノナルカ

答 衛生部ノ人員及材料ニ附着スルモノニシテ白地ニ赤十字ヲ畫ケルモノナリ

第十一章 彈藥補充

問 小行李彈藥ノ補充ヲ命セラレタル下士卒ハ如何ニシテ之ヲ携帶スルヤ

答 雜囊及衣囊等ニ收容スルモノトス

問 火線ニ在ル所ノ散兵ニ彈藥ヲ補充スル方法ヲ問フ

答 一、成ルヘク火線ニ増加スヘキ部隊ニ依テ之ヲ行フヲ要スルモ
ノトス

二、兵卒ヲ使役シテ最前線ニ在ル戦闘兵ノ爲ニ彈藥補充ヲ要ス
ルトキハ後方ニ在テ未タ戦闘ニ加ハラサル部隊ヨリ此ノ兵卒
ヲ取ルモノトス

問 彈藥補充ニ關スル下士卒ノ心得ヲ述ヘヨ

答 一、彈藥ノ補充ハ將校下士卒ノ區別ナク常ニ注意ヲ怠ラス苟
モ機會アレハ別ニ命令ナキモ之ヲ行ヒ唯其定數ノミニ據ラス
成ルヘク多クノ彈藥ヲ軍隊ニ保有スルコトニ注意スルコト
二、傷者及死者ノ彈藥ハ之ヲ收容スルコト

第十二章 鐵道輸送

問 輸送指揮官トハ如何

答 通常一列車ヲ以テ輸送スヘキ部隊ノ高級古參ノ將校ニシテ輸送
中其列車ノ軍隊ヲ指揮ス

問 停車場衛兵トハ如何

答 軍隊ヲ搭仰スル停車場ニ其停車場内ノ靜肅及軍紀ヲ維持スル爲
其地ノ衛戍或ハ近傍ニ在ル軍隊ヨリ備フル衛兵ヲ謂フ
若シ此ノ衛兵ナキ時ハ輸送衛兵ヨリ所要ノ哨兵ヲ配付スルモノト
ス

問 下士卒ハ如何ナル方法ニヨリ乗車スルヤ

答 一、輸送指揮官ハ下士卒ヲ車ノ座席ニ從テ區分シ之ヲ適當ノ
位置ニ排列シ而シテ後「乗車」ノ號令或ハ「前へ」ノ號音(凡テ停
車场内ニ於テ小笛ヲ用フルヲ禁ス)ヲ以テ乗車ヲ命スルコト

- 二、背囊ハ豫メ之ヲ卸シ携帶セシムルコト
- 三、乗車ノ號令或ハ號音アレハ各人ハ靜肅ニ順序正シク迅速ニ乗車スルコト

四、軍用列車ハ發車前晚クモ五分前ニ於テ乗車シ終ルコト

問 乗車後ノ取締方法ヲ問フ

答 一、輸送指揮官ハ各將校ニ其列車中ノ車ヲ配當シ之カ監視ニ任セシム

二、此ノ將校ハ配當セラレタル各車若ハ其車中ノ各室毎ニ高級古參者ヲ以テ班長ト爲シ之ニ取締ヲ命シ又下士兵卒ニハ其車ノ番號ヲ教示ス

問 列車進行中ニ於ケル下士卒ノ心得ヲ述ヘヨ

答 一、其位置ヲ離レサルコト

二、貨車ノ入口或ハ側板上ニ踞スヘカラサルコト

三、馬匹蕪秣彈藥及火災ノ虞アル物品ヲ載セタル車中ニテ喫煙シ又ハ恣ニ點火スヘカラサルコト

問 輸送途中下士兵卒ハ如何ナル停車場ニ下車シ得ル

ヤ

答 一、其輸送スヘキ人員材料寡少ニシテ普通列車ヲ用ヒタル時ハ兵卒ハ一般人民ノ下車スル停車場ニ於テ下車スルコトヲ得

二、軍用列車ニ於テハ兵卒全般ニ下車ヲ許スハ少クモ十分間停止スル停車場ニ限ルモノトス

問 下車ニ於ケル下士兵卒ノ心得ヲ述ヘヨ

答 下車ヲ爲スハ驛員ニ於テ車扉ヲ開キタル後「下車」ノ號令若ハ「前へ」ノ號音ヲ以テスルモノトス

第十三章 船舶輸送

問 船舶輸送ニ於テ輸送指揮官トハ如何

答 軍隊ノ乗船上陸ヲ指揮シ且其内部ノ秩序ヲ嚴正ニ保持スル爲各船舶ニ置カル、所ノモノニシテ通常其ノ船舶ニ搭載スヘキ部隊ノ高級古參ノ將校ヲ以テ之ニ任ス

問 船舶棧橋等ニ接着シアル時乗船ノ際下士兵卒ノ心得ヲ述ヘヨ

答 下士兵卒ハ順序ニ從ヒ靜肅ニ乗船スヘキモノトス

問 乗船ノ際舢舨ヲ用フル時下士兵卒ノ心得ヲ述ヘヨ

答 一、將校若ハ下士ノ誘導ニ依リ銃ヲ提ケ之ニ乘リ込ムコト
二、順次ニ違キ所ヨリ軸部ニ面シテ位置スルコト
三、前後左右ノ間隙ヲ密縮スルコト

四、漕航中ハ最モ沈靜ナルヲ要スルコト
五、海上危難ノ虞アル時ハ豫メ背囊ヲ下シ且踞座セシメタル、コトアリ

問 下士兵卒乗船後武器裝具ハ如何ニ處置スルヤ

答 一、銃ハ劍ト共ニ之ヲ坐側ニ置クコト
二、背囊(乗馬兵及馬卒ニ在テハ鞍囊)ハ之ヲ結束シテ枕ニスル如ク置クコト
三、外套ハ常ニ結束シ在ルヲ要セス使用セサル時ハ之ヲ疊ミテ背囊上ニ置クコト
四、乗船完結後輸送指揮官ノ検査アルヲ以テ之ヲ終ルルマテハ背囊等ヲ開カサルコト
五、馬匹ヲ有スル兵卒ハ先ツ馬匹及屬具ヲ整頓シ然ル後鞍囊ヲ

受領シ所定ノ坐席ニ著クコト

問 船内ニ於ケル風紀衛兵及巡察ノ最モ注意スヘキ事項ヲ問フ

答 火災及清潔ヲ戒ムルコト

問 船内ニ於ケル風紀衛兵及巡察ニ服スル者ノ服装ヲ述ヘヨ

答 別命ナケレハ銃ヲ携帯セシテ單ニ銃劍若ハ軍刀ヲ帶フルモノトス

問 特別ノ場合哨兵ニ彈藥ヲ携帯セシメタルトキ其任務終了セハ彈藥ハ如何ニスルヤ

答 之ヲ風紀衛兵ニ返附セシムルモノトス

問 船中ニ於テ一般ニ服膺スヘキ諸件ヲ述ヘヨ

答 一、寸燐等ノ發火器ヲ携帯セサルコト

二、喫煙飲食鹽嗽等ハ必ス指定ノ場所ト時間トニ於テシ又船内ヲ汚穢ナラシメサルコト

三、清水ノ使用ヲ節約スルコト

四、船橋或ハ前樓ニ上リ船室、機關室及庖厨ニ入り又羅針盤ノ周圍及階梯ノ近傍ニ佇立スヘカラサルコト

五、私ニ燈火ヲ點シ又ハ所定ノ燈火ヲ他ニ持チ行ク可ラサルコト

問 船舶輸送中失火座礁衝突等ノ場合ニ於テハ如何ニ行動スルヤ

答 一、極メテ靜肅ニ指定ノ位置ニ在テ船員ノ動作ヲ妨害セサルコト

二、輸送指揮官ヨリ特ニ指示シタル者ノミ船員ヲ補助スルコト

第十四章 秋季演習

問 機動演習ニ於ケル演習ノ種類ヲ問フ

答 一、第一種 旅團演習

二、第二種 師團演習

三、第三種 特別大演習

問 旅團演習トハ如何

答 歩兵旅團内ノ各一聯隊ヲ基幹トセル混成技隊ノ相對抗スル演習

ニシテ旅團長ノ統監スルモノトス

問 師團演習トハ如何

答 師團演習ハ歩兵旅團ヲ基幹トセル混成旅團ノ對抗及假設敵ニ對スル師團ノ演習ニシテ師團長ノ統監スルモノトス

問 特別大演習トハ如何

答 二個以上ノ師團相對抗スル演習ニシテ 天皇陛下親ラ之ヲ統監

アラセラル、モノトス

問 「氣ヲ着ケ」「止レ」ノ號音アル時ハ如何ニスルヤ

答 單獨ノ散兵斥候等ニ至ルマテ現在ノ隊形ヲ以テ其地點ニ駐止ス

ルモノトス

問 「氣ヲ着ケ」「止レ」ノ後「休メ」ノ號音アルトキハ如何ニスルヤ

答 徒歩兵ハ又銃ヲ爲シ騎兵及砲兵ハ下馬シ皆休憩スルコトヲ得

問 「氣ヲ着ケ」「前ヘ」ノ號音アル時ハ如何ニスルヤ

答 演習ヲ再興スヘキモノトス

問 假設敵トナリシモノ、注意スヘキ要件ヲ問フ

答 一、假設敵ハ兵員寡少ナル部隊ヨリ成ルヲ以テ實員軍ニ比スレハ其運動非常ニ容易且快速ナリ故ニ動モスレハ自然ノ景況ニ戻ル動作ニ流レ易シ故ニ此點ニ注意スルコト

二、凡テ假設敵ノ動作ハ最モ單純ニシテ演習ノ目的ニ適合セシムルヲ要スルコト

三、正面縦長距離間隔及進退ノ速度ハ實員ヲ有スルモノト等シカラシムルコト

四、假設敵ハ實員部隊ノ全ク隠レ得ヘキ掩蔽物ニアラサレハ其後方ニ其形ヲ全ク隠匿セシムルコトヲ得サルコト

五、標旗ハ常ニ兵卒ノ身長ニ等シク之ヲ掲クト雖兵卒ハ地形ヲ利用シ實員軍ニ戰場ニ於ケルト同一ノ目標ヲ與フルカ如クスルヲ要スルコト

問 演習間敵兵ヲ捕獲スル等ノ動作ハ之ヲ實施シ得ルヤ

答 演習上敵兵ヲ捕獲シ命令報告等ヲ略取シ或ハ馬匹ヲ奪去スル等ノコトハ決シテ許サ、ルモノトス

問 砲兵ハ其射撃目標ヲ示スニ如何ナル旗ヲ用フルヤ

答 一、歩兵ナル時ハ赤旗

二、騎兵ナル時ハ白旗

三、砲兵ナル時ハ旗ヲ現ハスコトナシ

四、旗ハ其敵ニ對スル如ク高擧スルモノトス

問 假設隊ヲ標示スル爲ノ旗ハ如何ナル種類アリヤ

答 一、歩兵ハ赤色

二、砲兵ハ濃黃色

三、騎兵ハ白色

問 假設敵ノ現ハス標旗ノ兵力ヲ述ヘヨ

答 一、赤色旗 歩兵一中隊

二、白色旗 騎兵一小隊

三、濃黄色旗 砲兵一中隊

問 損傷旗トハ何カ

答 兩面白色ニシテ中央ニ黑色ノ十字ヲ畫キタルモノニシテ部隊ノ損傷ヲ現ハスモノトス

問 統監旗トハ何カ

答 統監ノ所在ヲ標示スル旗トス

問 演習間左上上陣ニ纏フ各色布ノ區別ヲ問フ

答 一、白布ハ統監部ニ屬スル者

二、黄布ハ中立ノ者

三、赤布ハ陪觀將校及之ニ屬スル者

問 危害豫防ノ爲心得ヘキ諸件ヲ述ヘヨ

答 一、如何ナル場合ニ於テモ敵ヲ去ル百米以内ニ在テハ發火スル

コトヲ禁ス故ニ突撃ヲ實施スル爲此ノ距離内ニ近接セシトキハ互ニ唯射撃ヲ爲スノ狀ヲ假爲スルノミ

二、突撃ヲ實施スル時ト雖互ニ二十米ヨリ近接スルヲ禁ス故ニ此距離ニ至ラハ駐止シ歩兵ハ立銃ヲ爲スヘシ

三、演習ニ於テハ家屋秣藁等ノ如キ火災ノ虞アル近傍ニ於テ發火スルコトヲ禁ス

四、氣球ノ近傍ニ於テ發火若ハ喫煙スルヲ禁ス

第四編 步兵射擊教範ノ部

第一章 射擊學理

問 彈道トハ何カ

答 彈丸ノ空氣中ニ於ケル經路ヲ謂フ

問 射角トハ何カ

答 射線(銃身軸ノ延線)ト水平線トニテ爲ス角ヲ謂フ

問 銃身ニ腔綫ヲ施スハ何故ナルヤ

答 長圓彈ヲシテ終始規正ノ彈道ヲ畫カシメンニハ絶エス其尖頭ヲ前方ニ維持セシメサルヘカラス之カ爲銃身ニ腔綫ヲ施シ彈丸ヲシテ飛行間其長軸ノ周圍ニ自轉動ヲ起サシムル爲ナリ

問 照準機トハ何カ

第四編 步兵射擊教範ノ部

答 照星及照尺ヲ謂フ

問 照準線トハ何カ

答 照門ノ中央ヨリ照星頂ヲ通視スル直線ヲ謂フ

問 照準トハ何カ

答 一點ニ照準線ヲ指向スルヲ謂フ

問 照準點トハ何カ

答 照準線ヲ指向スル點ヲ謂フ

問 射距離トハ何カ

答 銃口ヨリ照準線及彈道ノ交點ニ至ル距離ヲ謂フ

問 昇弧トハ何カ

答 銃口ヨリ彈道中ノ最高點ニ至ル間ヲ謂フ

問 降弧トハ何カ

答 最高點ヨリ漸時降下シテ再ヒ照準線ト交會スル間ヲ謂フ

問 彈道ノ最高點ノ位置ヲ問フ

答 彈道ハ發點ヲ遠カルニ從ヒ益々彎曲スルヲ以テ其最高點ハ射距

離ノ中央ニアラスシテ約五分ノ三ノ所ニアリ

問 昇弧及降弧ハ何レカ長キヤ

答 昇弧ハ降弧ヨリモ長キモノトス

問 發射角トハ何カ

答 彈道ノ昇弧ト發射角ト交リテ爲ス角ヲ謂フ

問 落角トハ何カ

答 彈道ノ降弧ト照準線ト交リテ爲ス角ヲ謂フ

問 落角ト發射角トハ何レカ大ナリヤ

答 落角ハ常ニ發射角ヨリ大ナリ

問 彈道高トハ何カ

答 照照線ノ某點ヨリ彈道ニ至ル高サヲ某點ニ於ケル距離ノ彈道高ト謂フ

問 最高度トハ何カ

答 最高點ニ通スル彈道高ヲ謂フ

問 空氣ノ濃淡(氣壓溫度等)ハ射撃ニ如何ナル關係ヲ及ホスヤ

答 空氣ノ抗力ニ差異ヲ生シ射距離ヲ増減ス概シテ射距離ハ盛夏ニ於テ増伸シ嚴冬ニ於テ減縮スルモノトス

問 空氣ノ濃淡ハ如何ニシテ知ルヲ得ヘキヤ

答 氣壓高キ時及溫度低キ時ハ概シテ空氣濃淡ナルモノナリ

問 風ノ射撃ニ及ホス關係ヲ述ヘヨ

答 一、後方或ハ前方ヨリ來ル風ハ射距離ヲ増減ス

二、側面ヨリ來ル風ハ彈丸ヲ側方ニ偏移セシム而シテ其ノ尺度ハ射距離及風速ノ増加スルニ從ヒテ益々甚シキモノトス

問 光線ノ射撃上ニ及ホス影響ヲ述ヘヨ

答 一、光線上方ヨリ照星ヲ照ストキハ射手ノ眼中ニ映スル視像通常大ナルヲ以テ自然照星ヲ低ク照門内ニ顯出シ射距離ヲ減縮ス

二、曇天曉暮等總テ照星ヲ見ルコト明瞭ナラサルトキニ在リテハ自然之ヲ高ク顯出シ射距離ヲ増伸ス

三、光線側方ニ著シク照ストキハ照星ノ光輝スル一方ノ視像他ノ一方ヨリ大ナルヲ以テ其視像ヲ照門ノ中央ニ顯出シ彈丸ヲ

シテ暗黒ナル一方ニ偏移セシム

問 彈道ノ低伸トハ何カ

答 彈道ノ直線狀ニ近クテ彈道ノ低伸ト謂フ彈道ハ低伸スルニ從ヒ益々價值アルモノトス

問 危險界トハ何カ

答 彈道ノ目標(騎兵及歩兵ノ立膝伏姿ノ高サ)ヲ超過セサル平坦地ノ長サヲ謂フ

問 危險界ノ長短ハ何ニヨリテ變化スルヤ

答 一、射距離目標高及彈道低伸ノ度ニ從ヒ近距離ニ在リテハ尙射手ノ姿勢及照準點ノ位置ニ依リ變化スルモノトス
二、其他危險界ノ増減ハ目標所在地ノ傾斜ニ關係ナ有スルモノトス

問 集束彈道トハ何カ

答 彈丸ハ諸種ノ原因ニ依リ縱ヒ同一ノ銃ヲ用ヒ且銃身ノ位置ヲ同一ニシテ射撃ヲ行フモ每發其彈道ヲ同フセス恰モ束葉ノ如キ曲圓錐形ヲ爲ス之ヲ集束彈道ト謂フ

問 垂直被彈面トハ何カ

答 垂直面ニ收容セラレタル全射撃ノ散布面ヲ謂フ

問 垂直被彈面ノ形狀及彈着ノ景況ヲ述ヘヨ

答 垂直被彈面ノ高サハ概ネ其幅ヨリ大ニシテ彈數夥多ナル時ハ彈着ハ中央ニ近クニ從ヒ益々稠密ナルモノトス

問 平均點トハ何カ

答 垂直被彈面ノ彈着ヲ上下左右平等ニ分割スヘキ縱橫線ノ交點ヲ謂フ

問 躲避トハ何カ

答 平均點ト彈着點トノ隔ヲ謂フ

問 偏避トハ何カ

答 彈着點ト命中セシメントスル點トノ隔カヲ謂フ

問 垂直及水平公算躲避トハ何カ

答 平均點ヲ中央トシ總彈數ヲ含有スル部分ヲ垂直若ハ水平方面ニ

區別シ其界線ノ平均點ヨリ離隔スル長サヲ垂直若ハ水平公算躲避

ト謂フ

問 被彈面或ハ被彈地トハ何カ

答 平坦地上ニ於ケル集束彈ノ散布面ヲ水平被彈面或ハ單ニ被彈地

ト謂フ

問 一個ノ目標ニ對シ多數銃ヲ同時ニ使用シタル場合

ト單一銃ヲ以テ同數ノ彈丸ヲ發射シタル場合ト被彈

面ニ如何ナル差異アリヤ

答 多數銃ヲ同時ニ使用スル時ハ彈道ノ集束ヲ増大シ單一銃ノ射擊

ニ比シ被彈面ヲ擴張スルモノトス

第二章 三八式步兵銃ノ性能

問 三八式步兵銃ノ彈丸ノ速率ヲ問フ

答 銃口前二十五米ニ於テ平均六百七十八米ナリ

問 三八式步兵銃ノ最大ノ射距離ヲ問フ

答 約四千米トス

問 三八式步兵銃ノ射角ヲ問フ

答 約三十二度トス

第三章 射擊教練

第四編 步兵射擊教練ノ部

第一節 一般ノ要領

問 歩兵ハ射撃ニ習熟シ以テ戦闘ノ要求ヲ完フセサル可ラサルハ何故カ

答 火戦ハ歩兵ノ主要ナル戦闘手段ナルヲ以テナリ

問 射撃教育ノ目的ヲ述ヘヨ

答 射撃ノ効果ヲ收ムルニハ嚴肅ナル射撃軍紀特ニ正確ナル銃ノ操作照準及適切ナル射撃指揮ニ在リ射撃教育ハ是等ノ素因ヲ養成スルヲ目的トス

問 射撃教練ニ於ケル下士ノ職責ヲ述ヘヨ

答 下士ハ射撃教練ヲシテ實効ナラシムル如ク兵卒ヲ訓練セサルヘカラス之カ爲射撃學理ニ通曉スルノミナラス銃ヲ試射シ及其不正ヲ認知シ且保存ノ景況ヲ檢知シ得ル等ノ伎倆ヲ具備セサルヘカ

ヲス

問 中隊ニ於ケル射撃掛下士ノ任務ヲ述ヘヨ

答 射撃掛士官ヲ補佐シ射撃ニ係ル記録ヲ司リ射撃材料ノ保存並ニ彈藥及藥莢ノ出納ヲ擔任スルモノトス

問 射撃教練實施ニ關シ教官ノ一般ニ注意スヘキ要件ヲ問フ

答 一、射撃ノ教練ハ漸チ以テ行フヘキコト
二、射撃技能ヲ練習スルニハ射手ノ性質體格ヲ審カニシ精密ノ注意ヲ以テ教育シ徒ラニ外形ノ齊一ヲ望マサルコト
三、射手ヲシテ恐怖ノ念ヲ起サシメス射撃嗜好心ヲ喚起セシムシハ其進歩ノ上ニ著シキ關係ヲ有スルモノナルカ故ニ特ニ此點ニ留意シテ教育スルコト

問 射撃ノ良成績ヲ收ムル爲其ノ基礎トナルヘキモノハ何事ナルヤ

答 射撃動作ニ必要ナル關節ノ柔軟ト筋力ノ强健トヲ得ル爲射撃豫行演習ト共ニ屢々體操ヲ實施シ殊ニ射手ノ視力ヲ强健ナラシムル爲遠大ノ距離ニアル目視困難ナル目標ニ對シ屢々照準ヲ演習スルヲ必要トス

問 射撃術ヲ熟達セシムルハ教練射撃ニアリトハ何故ナルヤ

答 精神ヲ沈着ニシ精密ナル射撃ヲ行ヒ以テ銃ニ信頼セシムルハ專ラ此射撃ニ依ラサルヘカヲサレハナリ

問 射撃教練ハ戰團射撃ニ於テ其完成ヲ期スヘキモノナリトハ何故カ

答 兵卒ニ射撃軍紀ヲ涵養シ以テ戰場ニ於ケル銃ノ使用ニ慣熟セシメ指揮官ヲシテ射撃指揮ニ習熟セシムルハ此射撃ニ於テ始メテ期シ得ルモノナレハナリ

問 射撃豫行演習ニ於テ射撃法ヲ教授スルニハ如何ナル順序ヲ適當トスルヤ

答 立射膝射伏射ノ順序ヲ以テ教育シ次ニ胸牆及各種地物ヲ利用スル射撃ノ姿勢及動作並ニ動的ニ對スル射撃法ヲ教授スルヲ適當トス

第二節 射撃豫行演習

問 新兵ノ照準演習ヲ始ムルニハ先ツ如何ナル事ヲ教示スルヤ

答 銃ノ發射作用ヲ單簡ニ解説シ照準機ノ効用並ニ照準ノ方法ヲ教

示シ且ツ標的ノ説明ヲ爲スヘシ

問 新兵正シキ照準ノ景況ヲ知得シタル後ハ如何ナル事ヲ教示スルヤ

答 一、各自ニ砂囊上ニ在ル銃ニ就キ右眼ヲ床鼻ノ後方ニシ頰ヲ床尾ニ觸ル、コトナク照準ヲ爲サシムルコト
二、教官ハ射手ノ照準ヲ検査シ若シ誤謬アル時ハ之ヲ教示シ各射手ヲシテ正シク照準シ得ルニ至ルマテ之ヲ修正セシムルコト

三、又照準ノ熟練ヲ圖ル爲各射手ヲシテ他ノ射手ノ照準シタル銃ヲ點檢シテ照準ノ正否ヲ發見セシムルコト

問 照準鑑査法トハ如何及其方法ヲ問フ

答 照準ノ常ニ不變ナルヤ否ヤヲ檢スル爲ニ行フモノトス其ノ法左

ノ如シ

- 一、銃ヲ砂囊上ニ置キ白紙ヲ覆ヒタル標的ヲ約十米ノ距離ニ設置シ助手ノ顯出スル鑑査的（中心ニ細孔ヲ穿チタル中徑二冊米ノ黒圓板ニシテ細竿ヲ附シタルモノ）ヲ照準セシムルコト
- 二、照準終レハ助手ハ鉛筆ヲ以テ鑑査的ノ中心ニ印點シタル後少シク之ヲ移轉スルコト
- 三、射手ハ銃ニ觸ル、コトナク以前ノ照準線ヲ取り助手ニ指示シテ鑑査的ヲ動カシ其下際ヲ照準線ノ達スル點ニ導キ再ヒ其中心ニ印點セシムルコト

問 照準ノ際發生シ易キ諸種ノ照準誤差ハ如何ナル結果ヲ來スヤ

答 一、照星ノ顯出過高ナルトキハ彈着ヲ高カラシメ之ニ反シ過低

ナル時ハ彈着ヲ低カラシム

二、照星ノ顯出照門ノ一側ニ偏倚スル時ハ其偏倚シタル方向ニ彈着ヲ偏避セシム

三、銃ヲ左右ニ傾ケテ照準スル時ハ彈着ハ銃ノ傾キタル方向ニ偏避シ且射距離ヲ減縮ス

問 据銃ノ際ニ於ケル注意ヲ述ヘヨ

答 据銃ノ際ニ於ケル射撃姿勢ノ良否ハ命中成績ニ關係スルモノナルカ故ニ此姿勢ニ在リテハ身體ハ凝ルコトナク堅固ニ保持シ自然ノ状態ニアルヲ要ス否ヲサレハ銃ノ安靜ヲ得サルノミナラズ照準頗ル困難ナリ又被服及裝具ノ身體ニ適合セサルハ銃ノ操作ヲ妨害スルモノトス

問 射撃術ノ要領ヲ新兵ニ會得セシムルニハ如何ナル

射撃姿勢ヲ適當トスルヤ及其理由ヲ述ヘヨ

答 立射トス是レ立射ハ諸種ノ姿勢ニ於ケル射撃術ノ要領ヲ會得セシムルニ最も容易ナルノミナラズ教官其動作ノ過失ヲ發見シ且矯正スルニ便ナレハナリ

問 立射ノ姿勢ニ於テ据銃、照準及擊發ノ動作ヲ教フルニハ最初托架ヲ用フルヲ有利ナリト爲スハ何故ナルヤ

答 是レ銃ヲ托架ニ支撐スルカ故ニ射手ノ疲勞ヲ減シ得ルヲ以テ綿密ニ其動作ヲ矯正シ得レハナリ

問 立射ノ姿勢ニ於ケル据銃法ヲ述ヘヨ

答 一、兩手ヲ以テ銃口チ上グルコトナク體ニ近ク銃ヲ上ケ主トシテ右手チ以テ床尾飯チ肩ノ凹部即チ襟ト肩頭トノ間ニ確實ニ

壓著スルコト

- 二、同時ニ右肘ヲ殆ント肩ト齊等ニシ左肘ヲ自然ニ垂下スルコト
- 三、床尾板ヲ壓著スル爲故ラニ肩ヲ上ケ或ハ前ニ出スヘカラサルコト
- 四、既ニ据銃シタル後ハ右手ヲ緩メ又ハ銃ノ位置ヲ動スヘカラサルコト
- 五、銃把ハ通常右側面ヨリ握ルコト

問 教官ハ射手ノ据銃法ニ過失アルヲ發見セハ如何ニ之ヲ矯正スルヤ及其理由ヲ述ヘヨ

答 其姿勢ヲ變セシムルコトナク直ニ之ヲ矯正スルヲ要ス然ルトキハ容易ニ其過失ヲ理解セシメ且矯正シテ實効アラシムルモノナレ

ハナリ

問 立射ノ姿勢ニ於ケル照準ノ方法ヲ述ヘヨ

答 一、据銃スルト共ニ左眼ヲ閉チ直ニ銃ヲ照準セントスル點ニ指
向シ精密ニ照準スルコト
二、此際頭ハ殆ント自然ノ位置ニ保チ床尾ヲ頰ニ接スルコト
三、照準間ハ呼吸ヲ止メ引鐵ヲ壓スルコト

問 遠距離ノ照尺ヲ以テスル照準ノ方法ヲ述ヘヨ

答 遠距離 照尺ヲ取りテ照準スル時ハ照準線ヲ眼ノ高サニ導ク爲
照尺度ノ高上スルニ從ヒ床尾板ノ位置ヲ下方ニスルヲ要ス之力爲
漸次右肘ヲ低下シ終ニ身體ニ接著シ床尾板ヲ内臑ニ當ツルニ至
ルモノトス然ルトキハ銃把モ亦漸次下方ヨリ一層緊握シ左手ヲ用
心鐵ニ近ツケ又射手ノ體格ニ依リ左掌ヲ内方ニ向クルモ妨ケナシ

然レトモ何レノ場合ニ在リテモ頭ハ殆ント自然ノ位置ニ在ルヲ要ス

問 擊發即チ引鐵ノ引方教授ニ方リ教官ノ注意スヘキ諸件ヲ問フ

答 一、精密ニ教授スルコト

二、絶エス注意スルコト

三、新兵ニ教フル時ハ最初据銃スルコトナク之ヲ行ヒ其要領ヲ會得セシムルコト

問 引鐵ノ引方ノ要領ヲ問フ

答 一、右手ヲ以テ銃把ヲ緊握スルコト

二、食指ノ第二節ヲ引鐵ニ鈎シ其第一段ヲ壓スルコト

三、餘ニ食指ノ前部二節ヲ曲ケ第二段ヲシテ微弱ノ力ヲ加フ

ハ意ニ應ジ直ニ逆鈎ヲ離脱セシムル如クシ遂ニ擊發セシムルニ至ラシムルコト

四、此際食指ノ運動ハ之ヲ臂ニ波及セシムヘカラス故ニ食指ヲ曲グルニ從ヒ右手ヲ以テ漸次強ク銃把ヲ握ルコト

問 射手ハ引鐵ヲ壓スル爲力ヲ加フル要領ヲ熟知スル

コト緊要ナリ若シ此要領ヲ十分了解セサル者アルト

キノ教授法ヲ問フ

答 教官ハ射手ノ食指上ニ自己ノ食指ヲ添ヘテ引鐵ヲ壓シ其引方ヲ

知得セシムヘシ又射手ノ此要領ヲ了解シタルヤ否ヤヲ檢知スル爲

メ食指ノ前部第二節ノ運動ニ注意スヘシ之カ爲通常射手ノ左側面

ニ位置スルヲ適當トス

問 立射ノ姿勢ニ於ケル擊發法ヲ述ヘヨ

答 立射ノ姿勢ニ於テ擊發スルニハ据銃シテ照準ヲ始ムルト共ニ引鐵ノ第一段ヲ壓シ照準點ニ正シク照準線ヲ指向シ得タル時發射シ得ル如ク漸次引鐵ヲ壓スルモノトス

問 發射後ト雖尙瞬間擊發ノ姿勢ヲ保チ次ニ左眼ヲ開キ徐ニ食指ヲ伸ハシ銃ヲ構フルヲ必要トスルハ何故カ

答 是レ射手精神沈著セサルト姿勢動作ノ確實ナラサルトヨリ生スル過失ヲ矯正センカ爲ナリ

問 實包射擊ニ於テ往々免レサル過失其原因及矯正法ヲ述ヘヨ

答 實包射擊ニ於テ往々免レサル過失ハ

一、照準宜シキニ適シタルトキ急劇ニ引鐵ヲ壓スルコト

二、擊發ノ際右眼ヲ閉テ動カスコト

三、右肩ヲ進ムルコト

其原因ハ擊發ノ好期ヲ失センコトヲ願慮スルト、爆音ニ慣レザルト、反動ニ堪エントスルトヨリ偶然犯スモノニシテ射手ハ勿論教官ト雖之ヲ知ルコト困難ナルモ不發彈ナル時ハ容易ニ發見シ得ルモノトス

之ヲ矯正スルニハ

教練射擊ノ際射手ニ覺知セラレサル如クシテ不發彈若ハ全ク裝填セサル銃ヲ與ヘテ射擊セシメ以テ自ラ其過失ヲ悟ラシムルヲ可トス

問 膝射ノ姿勢ニ於ケル据銃法ヲ述ヘヨ

答 左前臂ヲ左膝上ニ立テ立射ノ如ク行フモノトス

問 伏射ノ姿勢ニ於ケル据銃法ヲ述ヘヨ

答 一、兩肘ヲ支點トスルコト

二、左手ハ概ネ立射ニ於ケル如クスルコト

三、右手ヲ以テ銃把ヲ稍下方ヨリ握ルコト

四、床尾飯ヲ鎖骨ニ接セサル如ク壓著スルコト

問 胸墻及各種地物ヲ利用スル際遠距離ノ目標ヲ射撃

シ或ハ瞰射スル爲必要ナル事項ヲ問フ

答 一、遠距離ニ在ル目標ヲ射撃スルニハ銃床尾ヲ低フセンカ爲高

キ依托物ヲ選フコト

二、瞰射ニ在リテハ必要ニ應ジ銃ヲ前ニ出シ下帯ノ下部ヲ依托

スルコト

問 側方ニ移動スル目標ハ如何ニシテ射撃スルヤ

答 其距離及速度ニ因リ目標ノ運動ニ從ヒツ、其前方ヲ照準スルモ

ノトス

問 照準ノ修正法ヲ教授スルニ方リ其實施ノ方法ヲ説

明セヨ

答 中間距離ニ於ケル照準法其他天候、光線ノ感及等ヨリ生スル偏

避ヲ修正スル方法ヲ教授シ然ル後偏避ノ諸原因ヲ假想シテ問題ヲ

興ヘ或ハ彈著點ヲ指示シ之ニ應スル修正ヲ爲サシメ其適否ヲ檢ス

ルモノトス

此演習ハ新兵ニ在テハ照準一般ノ要領ヲ會得シタル後照準ノ演習

ト共ニ屢々實施スルヲ要ス

第三節 狹窄射撃

問 狹窄射撃ノ利トスル所ヲ述ヘヨ

第四編 歩兵射撃教範ノ部

答 射撃ノ動作殊ニ照準及撃發ノ要領ヲ習得シ尙射撃ノ熟練ヲ維持スルニ利アリ

問 狹窄射撃ハ幾何ノ距離ニ於テ施行スルヤ

答 通常十五米トス

問 狹窄射撃ノ爲塗油ニ關スル注意ヲ述ヘヨ

答 一、命中ヲ確實ナラシムル爲射撃前ニ於テ必ス銃腔ニ塗油スルコト

二、若シ同一銃ヲ以テ連續射撃スル場合ニハ約五發毎ニ塗油スルコト

三、射撃ノ際彈丸或ハ木栓銃腔ニ滯止スルコトアラハ之ヲ脱シ更ニ銃口ニ塗油スルコト

第四節 距離測量

問 距離測量法中最モ正確且最簡單ニシテ多クノ場合ニ適用セラル、ハ何カ

答 目測法ナリ

問 下士兵卒ハ幾何距離マテノ目測ニ熟練スルヲ要スルヤ

答 一、兵卒ハ六百米以内(近距離)ノ距離目測ニ熟練シ尙千米ニ到ル迄目測シ得サルヘカラス

二、下士ハ近距離ノミナラス六百米乃至千米(中距離)ノ目測ニ熟練シ尙千米以上(遠距離)ノ距離ヲ目測シ得サルヘカラス

問 步測ノ方法ヲ述ヘヨ

答 各人自然 歩ト百米ノ關係ヲ知リ其關係步數ニ依リ距離ヲ測量

スルモノトス而シテ歩測ニハ通常複歩ヲ用フルチ便トス

問 音響測量ノ方法ヲ述ヘヨ

答 音響ハ一秒時間ニ約三百三十三米ニ達スルモノナルヲ以テ此音響波動ノ速度ヲ利用シ距離ヲ測量スルモノナリ

問 目測ヲ近ク誤リ易キ場合ヲ問フ

- 答 一、天候晴期ナルトキ
 二、降雪後
 三、測手太陽ヲ背後ニセルトキ
 四、目標ノ背後明瞭ナルトキ
 五、平坦地
 六、水面
 七、遠隔セル明瞭物

八、波狀地

九、殊ニ中間ノ土地ヲ通視シ得サルトキ等

十、此他實戰ニ於テハ近キニ失スルモノトス

問 目測ヲ遠ク誤リ易キ場合ヲ問フ

- 答 一、炎熱ノトキ
 二、測手太陽ニ面セルトキ
 三、目標ノ背後暗黒ナルトキ
 四、曇天
 五、濃霧
 六、曉暮
 七、森林内
 八、狹長ノ土地

九、一部分ノ見ユル敵兵等

十、又膝姿伏姿ニ在リテ目測スル時ハ遠キニ失スルモノトス

問 目測ノ方法ヲ説明セヨ

答、目測ハ概ネ左ノ方法ニ據ル

一、數回ノ演習ニ依リ記憶シタル地上ノ距離或ハ既ニ豫知シタ

ル目前ノ某距離ヲ以テ測量スヘキ距離ニ比較シテ測定スルカ

或ハ測量スヘキ距離ノ中央ニ一點ヲ認定シ此點ニ到ル距離ヲ

目測シ之ヲ倍シテ測定距離ト爲ス

二、一定距離ニ在ル目標視像ノ明暗大小ヲ記憶シ以テ測量スヘ

キ距離ニ在ル目標及其附近ノ視像ニ比較シ距離ヲ判知ス

問 前二法ニ就テ其利害ヲ述ヘヨ

答 一、第一ノ方法ハ中間ノ土地ヲ通視シ得ル時ニ非ラサレハ適用

シ得サルモ比較的正確ニ測量スルヲ得

二、第二ノ方法ハ何レノ場合ニモ適用シ得ハシト雖其結果稍不

正確タルコトヲ免レス

問 中距離以上ノ目測距離ハ如何ニシテ行フヤ

答 通常中距離以上ノ目測ニ在リテハ最大最少ノ一距離ニ判定シテ

之ヲ平均スルヲ可トス但シ兩距離ノ差ハ成ルヘク短少ナルヲ要

ス

問 新兵ニ目測法ヲ教授スル方法ヲ説明セヨ

答 一、先ツ測點ヨリ諸方向ニ二百四百及六百米ノ距離ニ標兵ヲ派

遣シ諸種ノ動作ヲ爲サシメ測手ヲシテ各自視ル所ニ從ヒ其地

上距離及目標視像 景況ヲ記憶セシムルコト

二、中距離以上ニ在リテモ之ニ準スルコト

三、此演習ニ於テ距離ノ遠近ニ從ヒ地上ノ同一長度及目標視像ノ變化スル景況ヲ試問シ或ハ教示スルコト

四、此距離ノ記憶ヲ檢知スル爲ニハ兵卒ヲシテ各自ノ目測セル二百米或ハ四百米等ノ距離ニ標兵ヲ位置セシメ或ハ單ニ此距離ヲ地上ニ指不セシメ以テ其適否ヲ檢スルコト

問 未知距離目測演習ノ初メニハ如何ニ之ヲ教育スルヤ

答 已知距離ニ標兵ヲ置キ以テ目測スヘキ標兵ニ比較セシメ目測ヲ容易ナラシムヘシ

問 熟練シタル後ニ於ケル目測演習ヲ問フ

答 諸種ノ距離地形及景況ニ於テ各種ノ目標或ハ高地樹木家屋其他目視困難ナルモノ及瞬間現出スル目標等ニ對シ各種ノ姿勢ヲ以

テ迅速ニ距離ヲ目測スルコトニ慣熟セシムヘシ

第五節 教練射擊

問 教練射擊ノ種別及其目的ヲ問フ

答 教練射擊ハ基本射擊、實習射擊ノ二種トス

其目的左ノ如シ

一、基本射擊ニ於テハ射擊術ノ基礎ヲ精密ニ練習シ併セテ銃器ノ特別ナル性質ヲ檢知シ之ヲ修正スルコトヲ知得セシムルニ在リ

二、實習射擊ニ於テハ基本射擊ニ於テ習得シタル技能ヲ漸次遠隔セル目標ニ應用シテ銃ノ用法ニ慣熟セシメ以テ射擊ニ熟達セシムルニ在リ

問 教練射擊ニ於ケル射手ノ服裝ヲ述ヘヨ

答 一、執銃本分ノ射手ノ服裝ハ軍裝ニシテ其負擔量ヲ戰時ニ等シカラシムルコト

二、基本射撃ニ在リテハ背囊ノミヲ負フコト

問 一等射手トハ何方

答 一等射手トハ二等射手ノ各習會ニ合格シタルモノヲ謂フ

問 二等射手トハ何方

答 二等射手トハ初年兵 候補生、一年志願兵モ之ニ準ス(及未熟ナル射手ヲ謂フ)

問 特別射手トハ何方

答 連續二ヶ年間一等射手ノ各習會ニ合格シタル者及第二種徽章ヲ有スル下士兵卒ヲ謂フ

問 記點下士上等兵ノ勤務ヲ問フ

答 一、射手ノ傍ニ位置シ監的手ノ記號ヲ視テ命中成績ヲ墨汁ヲ以テ射撃成績草稿表ニ筆記スルコト

二、射手ノ報告監的手ノ記號ト相違スルトキハ直ニ之ヲ射手ニ注意スルコト

三、銃及彈藥ニ故障アリタルトキ摘要ニ記入スルコト

問 彈藥分配掛下士若ハ上等兵ノ勤務ヲ述ヘヨ

答 彈藥ノ支給及藥莢ノ出納ヲ司ルモノトス

問 射撃スヘキ各級ノ射手ハ幾名ヲ以テ一群トスルヤ

答 四名乃至六名トス

問 射撃前ニ於ケル銃ノ検査ハ特ニ如何ナルコトニ注意シテ行フヤ

答 銃腔内ニ外物ノ附著シアラサルヤ否ヤニ注意スヘシ

問 射撃スヘキ各群ハ火線(發射スヘキ位置)ノ後方何歩ノ所ニ位置セシムルヤ

答 約十歩トス

問 射撃全ク終リタル射手ハ火線ノ後方何歩ノ所ニ位置セシムルヤ

答 約十五歩トス

問 彈藥不發ナルトキノ所置ヲ問フ

答 彈藥發セサルトキハ徐ニ遊底ヲ開キ彈藥ヲ旋回シテ新位置ヲ取ラシメ再ヒ射撃ス此クノ如クスルモ發セサルトキハ他ノ射手ニ交付シテ射撃セシメ尙發セサルトキハ不發彈ト認定ス

問 監視者ハ射手ノ精神沈着セサルヲ認メタルトキノ如何ニ處置スルヤ

答 一、銃ヲ下サシメ若ハ其位置ヲ退キ休憩セシムルコト
二、命中著シク不良ナル射手ハ當日ノ射撃ヲ中止セシムルコト

問 監視者ハ射手ノ射撃成績不良ナルモ其原因射手ノ過失ニアラスト認定シタルトキノ如何ニ處置スルヤ

答 監視者自ラ其銃ヲ取り試射ヲ爲スカ或ハ良射手ヲシテ之ヲ爲サシムヘシ

問 監視者射撃當日ノ氣候著シク成績ニ影響スヘシト認メタルトキハ如何ニスルヤ

答 自ラ試射ヲ爲スカ或ハ良射手ヲシテ之ヲ爲サシメ其照準點ヲ一般ニ告知スヘシ

問 監視の手ハ如何ナルモノヨリ成ルカ

答 中隊ニ於テ監的長トシテ下士若ハ上等兵一名監的手トシテ每標的ニ上等兵一名兵卒二名若ハ三名ヲ出ス又此ノ勤務ハ通常ニ時間以上ニ亘ルトキハ交代セシムヘキモノトス

問 監的長ノ勤務ヲ説明セヨ

答 一、射擊中監的手ノ動作ヲ監視シ之ヲシテ諸規則ヲ嚴正ニ履行セシムルコト

二、自ラ隱顯的ノ指揮ヲ爲ス力若ハ上等兵ヲシテ之ヲ爲サシムルコト

三、二中隊以上同時ニ射擊ヲ行フ時ハ高級古參ノ監的長ハ監的手一般ノ取締ニ任スルコト

問 監的上等兵ノ勤務ヲ述ヘヨ

一、上等兵ハ命中成績ノ報告ヲ正確ナラシメ兼テ監的鏡ニテ射

場ノ景況ヲ觀察シ其記號ニ注意スルコト

二、二標的毎ニ一ノ監的鏡ヲ備フルトキハ二名ノ上等兵ハ交互

ニ監的鏡ニ注視スルコト

問 隱顯的ノ顯出時間ヲ問フ

答 六秒時トス

問 射擊ノ際不慮ノ危害ヲ豫防スル爲遵守スヘキ諸件

ヲ述ヘヨ

答 一、射擊ヲ開始スル若干時間前ヨリ射擊場ニ赤旗ヲ掲ケ警戒スルコト

二、射場ト監的壕トノ交通ハ特別ニ設置セザル通路ニ依ルカ或ハ一時射擊ヲ中止シタル後ニ於テスヘキコト

三、總テ喧噪ニ涉ル所爲ハ射場ニ於テ嚴禁トス故ニ射場ト監的

壕トハ聲音又ハ號音ヲ以テ通信セサルコト

四、同一射撃場ニ於テ異距離ヨリ同時ニ射撃セサルコト

五、裝填セル銃ハ手ヨリ離サ、ルコト

六、裝填シアル銃ヲ他人ニ依托スル時ハ裝填シアルコトヲ告知スルコト

七、射撃場ニ於テ擅ニ照準演習ヲ爲スヘカラサルコト

第六節 戰鬪射撃

問 戰鬪射撃ノ目的ヲ述ヘヨ

答 實戰ニ近キ情況ニ於ケル射撃ヲ練習シ射撃教育ヲ完成スルニア

問 戰鬪射撃ニ於ケル服裝ヲ述ヘヨ

答 軍裝ニシテ其負擔量ハ戰時ニ同シ

問 各個戰鬪射撃トハ如何及其目的並教育上ニ於ケル

注意ヲ問フ

答 各個戰鬪射撃ハ實包ヲ使用スル單獨兵ノ戰鬪動作ニシテ教練射撃ノ應用法ヲ了解セシムルヲ目的トス故ニ此教育ハ充分綿密ニ進ヲ用ヒ各人ニ就キ其能力ニ應シ懇切ニ指導スヘキモノトス

問 各個戰鬪射撃ニ於テ主トシテ要求スル諸件ヲ述ヘ

ヨ

答 一、目標發見ヲ迅速ニスルコト

二、適當ニ位置ヲ選定シ地物ヲ利用スルコト

三、目標ヲ適當ニ選定スルコト

四、速ニ距離ヲ測定スルコト

五、効力ヲ期シ得ルヤ否ヤヲ判斷スルコト

- 六、照尺及照準點ヲ選定シ或ハ之ヲ修正スルコト
- 七、如何ナル姿勢ニ於テモ据銃ヲ敏捷確實ニスルコト
- 八、短少時間ニ精密照準ヲ爲シ得ルコト
- 九、精神ヲ沈著シ熟練シテ發射スルコト

問 單一銃ノ射撃ニ於テ約半數以上命中ヲ期シ得ヘキ

標準ヲ説明セヨ

答 二〇〇米ニ在テハ 頭首ノミヲ顯シタル兵

三〇〇米ニ在テハ 伏姿兵

四〇〇米ニ在テハ 膝姿兵

五〇〇米ニ在テハ 立姿兵或ハ密集セル二人膝姿兵

六〇〇米ニ在テハ 密集セル二人立姿兵或ハ騎兵

問 部隊團戰射撃ニ於テ成績ノ良好ヲ期スル爲距離及

目標ニ對シ適當ナル射撃ノ方法ヲ問フ

答 近距離ニ於テハ低キ目標ト雖好成绩ヲ收メ得ヘキモ中距離ニ於テハ多數ノ彈藥ヲ使用スルニ非サレハ十分ノ効果ヲ收メ難シ高キ目標ニ在リテハ中距離ニ於テハ好成绩ヲ收メ得ヘキモ遠距離ニ於テハ命中公算ヲ減少ス故ニ遠距離ニ在リテハ有利ノ目標ニ對スルニ非サレハ射撃セサルモノトス

問 部隊團戰射撃ニ於テ目標選擇ノ要領ヲ問フ

答 一、我ニ最モ多クノ危害ヲ與フルモノ若ハ速ニ殲滅セシメントスルモノ等戰術上ノ價值ニ從テ判定スルコト

二、次ニ効力ノ大ナルモノヲ選ムコト

問 部隊團戰射撃ニ於ケル射撃目標ノ限界ハ如何ニシテ指示スルモノナルヤ

答 中隊ノ擔任スヘキ敵ノ正面ヲ以テス

問 目標ノ變換ニ就テ衡量スヘキ要件ヲ問フ

答 目標ノ變換ハ戰術上特種ノ顧慮ヲ要セサル時ハ之ヲ變換スルト
現狀ヲ其儘持續スルト同一時間内ニ於ケル効力孰レカ有利ナルヤ
ヲ衡量スヘキモノトス

問 射撃シツ、アル敵ノ散兵線ノ後方ニ有利ノ目標現

出スルカ如キ場合ニ於テハ目標ヲ變換スルモノナル
ヤ及其理由ヲ述ヘヨ

答 斯ノ如キ場合ニ在リテハ特ニ目標ヲ變換スルコトナク兵卒獨斷
ノ範圍内ニ於テ其目標ト重疊スル敵ノ散兵線ニ射撃ヲ指向スルヲ
可トス然ルトキハ其ノ集束彈ニ由リテ通常併セテ効力ヲ收メ得ヘ
ケレハナリ

問 部隊戰鬪射撃ニ於テ各散兵ノ射撃ヲ指向スルニツ

キ如何ナル注意ヲ要スルヤ

答 通常各散兵ハ目標中己ニ正對セル部分ニシテ比較的明瞭ナルモ
ノアルトキハ先ツ之ヲ射撃スヘキモノトス

問 指示セラレタル範圍内ニ於テ有利ナル目標例ヘハ

敵ノ躍進部隊ノ如キモノアラハ如何ニスルヤ

答 別命ヲ待タス之ニ對シテ射撃ヲ集ムルヲ利アリトス

問 目標ノ指示困難ナル場合ハ如何ニスルヤ

答 一、其附近ノ地物ヲ目標指示ノ補助タラシムルコト
二、又狀況之ヲ許サハ未タ射撃開始ヲ要セサル時期ニ於テ豫メ

之ヲ指示シ置クコト

問 目視困難ナル目標ヲ射撃セシムルニ方リ有利ノ方

法ヲ問フ

答 目視困難ナル目標ニ在リテハ其目標ト同高ニシテ且占領面ニ平
行セル附近ノ地物例ヘハ目標ノ背後ニアル森林ノ下際ノ如キ補助
目標ヲ照準セシムルヲ以テ却テ有利ト爲スコトアリ

問 混用照尺ヲ用フル場合ヲ問フ

答 小隊以上ノ部隊ニシテ通常八百米以上ニ於テ距離ヲ確知シ難キ
トキトス

問 照尺度ト合致セサル中間ノ距離ニ在ル目標ニ對シ
テハ如何ナル照尺ヲ採ルヤ

答 通常其距離ト差ノ少ナキ照尺ヲ採ルモノトス

問 照準點ハ如何ナル處ニ撰ムヲ適當トスルヤ

答 一、通常目標ノ下際ニ取ルモノトス

二、目標ニ對スル上下ノ修正ハ照尺ノ變換ニ依リ行フモノトス
問 中距離以上ニ在ル正面狹キ隊形例ヘハ側面隊形等
ニ對シテ射擊スル場合ニハ如何ナル注意ヲ要スル
ヤ

答 側方ヨリスル風力ノ爲集束彈ヲ目標外ニ偏移セシムルノ虞アル
ヲ以テ左右ニ於ケル照準點ノ修正ヲ懈ルヘカラス

問 分隊ヲ以テ行フ戰團射擊ノ目的ヲ問フ

答 射手ヲシテ散兵線ニ於ケル協同動作ト射擊軍紀トニ慣レシメ分
隊長ヲシテ其職責ヲ習得セシムルニ在リ

第四章 各種ノ射擊

問 特別射擊トハ何カ

答 士官下士及兵卒ヲシテ射擊ニ益々精熟シ併セテ射擊ノ嗜好心ヲ

喚起セシメンカ爲行フ特別ノ射撃ヲ謂フ

問 檢閲射撃トハ如何

答 聯隊長ハ毎年一回射撃教練ノ大部ヲ終ヘタル時期ニ於テ通常建制中隊ノ中隊戰鬪射撃ヲ施行シ以テ戰鬪間指揮官ノ射撃指揮ノ適否及兵卒ノ射撃熟達ノ程度ヲ檢閲スルモノヲ謂フ

問 名譽射撃トハ如何

答 名譽射撃ハ中隊ノ射撃教育ヲ獎勵シ且教練射撃ニ於ケル熟達ノ程度ヲ檢スル爲行フ射撃ヲ謂フ

問 試驗射撃トハ如何

答 大ニ修理ヲ要スルカ若ハ命中不良ノ銃ヲ豫メ銃工長ヲシテ細密ニ各部ヲ檢査セシメ然ル後中隊ニ於テ試驗ノ爲射撃ヲ行フ之ヲ試驗射撃ト謂フ

第五章 射撃ノ褒賞

問 射撃徽章ノ種類ヲ問フ

答 第一種徽章、第二種徽章、第三種徽章トス

問 射撃徽章ハ如何ナル者ニ授與スルヤ

答 一、第一種徽章 特別射手中教練射撃ノ結果優等ナル者ニ授與ス
二、第二種徽章 一等射手中教練射撃ノ結果優等ナル者ニ授與ス
三、第三種徽章 二等射手中教練射撃ノ結果優等ナル者ニ授與ス

問 各級射手ノ優劣ハ如何ニシテ決定スルヤ

答 各級射手ノ優劣ハ教練射撃ノ各習會ニ合格シ尙實習射撃ノ發射

彈ノ數最少ナル者ヲ以テ最優等トシ若シ同等ナル時ハ實習射擊ノ命中點數ニ因リ尙同等ナル時ハ基本射擊ノ彈數ニヨリ決定ス

問 射擊徽章佩用ノ規定ヲ述ヘヨ

答 一、徽章ハ全服役間之ヲ佩用シ上衣左肋ノ邊ニシテ概ネ第三鈕ノ高サニ佩フルモノトス
二、若シ數箇チ有スル時ハ其ノ種類ノ順次ニ從ヒ右ヨリ左ニ列モノトス

問 射擊名譽旗ハ如何ナルモノニ交附スルヤ

答 師團内ニテ名譽射擊ノ成績最モ優等ナル中隊ニ交附スルモノトス

問 名譽旗ヲ交附セラレタル中隊ノ之ヲ所有スル期間ヲ問フ

答 此旗ハ次年ノ名譽射擊施行期日ヲテ所有スルモノニシテ射擊當日ニ至ラハ之ヲ師團長ニ返納スルモノトス

問 名譽旗ヲ交附スルニハ如何ニスルヤ

答 之ヲ受クヘキ中隊ト同一衛戍地ニ在ル所屬師團ノ步兵隊ヲ整列シ師團長之ヲ其中隊長ニ交附ス交附終リタル後各隊ハ分列式ヲ施行ス

第六章 射擊材料及射擊場

問 標的ノ種類ヲ問フ

答 一、圈的
二、圈頭的
三、人像的
四、散兵的

五、騎兵的

問 人像的ノ種類ヲ問フ

答 一、立姿的 高サ一米六十五

二、膝姿的 高サ一米

三、伏姿的 高サ〇米五十

四、頭的 高サ〇米三十五

問 部隊戰鬪射擊演習ニ使用スル幕的ハ如何ナル者ナルヤ

答 立姿的ヲ布製ト爲シ數條ノ麻繩ヲ用ヒテ之ヲ橫隊或ハ散兵線ノ

間隔ニ連絡シ二三兵卒ノ操作ニ依リテ任意ニ立姿、膝姿、伏姿高

サ頭ハサシメ得ル如ク製作シタルモノトス

問 射擊場及標的ニ附屬スル射擊用具ノ種類ヲ問フ

答 記號板、號旗、示號標、監的鏡、治療竿及監的用具等トス

問 監的用具ノ種類ヲ問フ

答 糊壺白色黑色ノ治療紙等ニシテ戰鬪射擊ニ在リテハ右ノ外彈痕

圖表、携帶圖板等ヲ要スルモノトス

問 射擊場ノ種別ヲ問フ

答 教練射擊場、臨時射擊場ノ二種ニ分ツ

問 教練射擊場トハ何カ

答 主トシテ教練射擊及之ニ準スル射擊ヲ行フ所ナリト雖射場之ヲ

許サハ各個戰鬪射擊ニモ之ヲ代用スルコトアリ

問 臨時射擊場トハ何カ

答 戰鬪射擊其他教練射擊場ニテ爲シ得サル射擊ヲ施行スル爲臨時

ニ定ムル射場ヲ謂フ

第七章 射撃ノ記録

問 中隊ニ於テ射撃ニ關シ備フヘキ諸表ヲ問フ

答 一、射手人名一覽表

二、各射手ノ射撃成績表

三、試験射撃成績表

四、部隊戰團射撃實施及成績表

五、右ノ外特ニ施行セル射撃成績表

問 射撃成績ノ記載ハ如何ニシテ行フヤ

答 射撃當日ハ射撃成績ノ草稿表ヲ射撃場ニ携行シ成績ヲ記入シ歸

營後直ニ射撃手簿及射撃成績表ニ淨寫スルモノトス

問 彈着ノ登記法ヲ問フ

答 一、圓の圈頭的及散兵的ノ命中點數ハ亞刺比亞數字ヲ以テ記入

シ其傍ニ附點シ中心ニ關スル彈着ノ位置ヲ表示ス

二、人像的ニ命中シタルモノハ5トス（彈着ノ位置ヲ表示スル

爲メ附點ヲ要セス）

三、命中セサル射彈及跳彈ノ命中セシモノハ0ヲ以テ表示ス

四、合格ヲ表スルニハ十ヲ以テシ不合格ニハ一ヲ以テス

中止若ハ不合格者ノ彈着ハ括弧ヲ附シ以テ更ニ施行スル同一習

會ノ成績ト區別スヘシ

射撃終レハ全射彈總點數ヲ合計記入スルモノトス

第五編 野戰築城教範ノ部

第一章 一般ノ要領

第一節 野戰築城ノ目的及効用

問 野戰築城ノ目的ヲ述ヘヨ

答 軍隊ノ戰鬥力ヲ保持増進シ常ニ我軍ヲシテ有利ノ形勢ニ在リシ
ムルニ在リ

問 野戰築城ノ價值ヲシテ頗ル重要ニシテ缺クヘスラ
サラシムルニハ如何ニセハ可ナルヤ

答 適切ナル時機ニ適當ニ築設スルニアリ

問 攻撃ニ於テ築城ノ使用ヲ緊要トスルハ何故ナルヤ

答 攻撃ニ在リテハ既ニ占領シタル地區ヲ維持シ或ハ堅固ナル陣地

ニ對シ逐次ニ據點ヲ構成シテ近迫スル爲ナリ

問 防禦ニ在リテ築城ノ使用ヲ緊要トスルハ何故ナルヤ

答 防禦ニ在リテハ寡少ナル兵力ヲ以テ靱強ナル抵抗ヲ爲シ或ハ防禦地區ノ兵力ヲ節約シ以テ攻撃動作ニ強大ナル兵力ヲ使用スル爲ナリ

問 野戰築城ヲ必要トスルノ程度尠キ場合ト雖尙之ヲ實施スルノ必要アリヤ

答 全ク之ヲ忽ニスヘカラス然レトモ情況ノ變化ニ際シテ既設工事ノ爲指揮ヲ掣肘セラレサルヲ要ス

第二節 陣地ノ選定

問 陣地ノ選定ハ如何ナル主旨ニ依リテ決定スルヤ

答 主トシテ我軍ノ目的彼我ノ情況ニ依リ之ヲ決定スルモノトス

問 陣地内ニ多少不利ナル地形ノ存在スルハ常ニ免ルヘカラサルモノナリト然ラハ此缺點ハ如何ニシテ補フヤ

答 兵力ノ分配及工事ノ施設ニ依ルモノトス

問 陣地ノ廣袤ハ兵力ニ如何ナル關係ヲ有スルヤ

答 之ヲ守備スヘキ兵力ニ適應セサルヘカラス

問 陣地ニ備フヘキ主要ナル性能ヲ問フ

答 廣濶ナル射界ヲ有スルヲ要ス

第三節 陣地ノ設備

問 陣地ノ設備ヲ爲スニ方リ工事ノ施設ハ如何ナル主旨ニ依リテ決定スルヤ

答 其目的決戦ヲ行フニアルカ或ハ時間ノ猶豫ヲ得ルニアルカニ由ルモノトス

問 陣地ヲ設備スルニ方リ築城ノ本旨トハ何カ

答 陣地ヲ設備スルニハ全力ヲ竭シテ唯一ノ陣地ヲ強固ニ構成スルコト必要ナリ逐次ノ抵抗ヲナサンカ爲數線ニ之ヲ設備スルハ築城ノ本旨ニアラス

問 一般ノ場合ニ在テ陣地ノ設備上第一ノ注意トハ如何ナルコトカ

答 射界ノ清掃ト距離ノ測定トス

問 防禦工事ハ若シ敵ヲシテ陣地ノ識別ヲ容易ナラシムルトキハ如何ナル害アリヤ

答 其價值ノ大部ヲ没却シ且敵砲兵ノ害ヲ蒙ルコト大ナルモノトス

問 防禦工事ハ其識別ヲ困難ナラシムル爲如何ナルコトニ注意スルヤ

答 一、陣地ノ識別ヲ困難ナラシムル爲ニハ注意シテ防禦ノ土地ノ状態ニ適合セシメサルヘカラサルコト

二、高地ノ巔頂ニ築設シタル工事ハ敵ニ認識セラレ易キヲ以テ地形之ヲ許セハ歩兵線ハ其前方ノ斜面ニ設ケ以テ工事及火線ヲ占領スル散兵ノ空際ニ投影スルヲ防クコト

三、胸牆及其他ノ積土ハカメテ之ヲ低クシ長キ直線部ヲ作ルコトナク縁端及稜角ハ之ヲ圓削シ且成ルヘク緩徐ナル斜面ヲ以テ之ヲ自然地ニ接合シ周圍ノ土地ト識別シ難カラシムルコト

問 守兵ノ徒ラニ胸牆上ニ現出スルハ如何ナル害アリヤ

答 我陣地ヲ敵ニ察知セシムルモノトス

問 偽工事ノ目的ヲ問フ

答 敵ヲシテ眞ノ陣地ヲ識別スルニ困難ナラシムルモノトス

問 偽工事ハ其設置宜シキヲ得レハ如何ナル利益アリ

ヤ

答 全然之ヲ誤認セシメ敵火ヲ此方面ニ誘致シ得ルノ利アリトス

問 歩兵ノ陣地ハ通常如何ナルモノヨリ成ルヤ

答 散兵壕、後方部隊ノ掩壕及要スレハ此兩壕間ノ交通壕ヨリ成ル

モノトス

問 掩壕ト散兵線トノ距離ヲ決定スルニハ如何ナル顧

慮ヲ要スルヤ

答 掩壕ハ後方部隊ヲシテ時機ヲ失セス火線ニ増援シ得ル如ク適宜

ニ散兵線ニ接近セシムルヲ要ス

問 散兵壕及掩壕ニハ常ニ掩蔽部並ニ横牆等ヲ設クル

ノ必要アリヤ

答 情況ノ許ス限リ散兵壕及掩壕ニ始メヨリ彈子及破片ノ威力ニ抗

シ得ヘキ輕易ナル掩蔽部並ニ横牆ヲ設クルコトニ注意スルヲ要ス

問 陣地ノ正面前ニ於テハ如何ナル場所ニ障害物ヲ用

フルヤ

答 敵兵隱蔽シテ我陣地ニ接近シ得ヘキ場所ニ用ヒラル

問 陣地ノ正面前ニ障碍物ヲ設置スル爲注意スヘキ要

件ヲ問フ

答 一、敵ニ發見サレ雖ク且破却企圖ニ對シ充分防護シアラサルヘ

カラサルコト

二、之ヲ設置シタルカ爲我運動ノ自由ヲ甚シク制限セラレサル
ヲ要スルコト

第四節 作業器具及作業力

問 工事ヲ迅速ニ竣功スヘキ要訣ヲ問フ

答 一、其部署ヲ適當ニシ指揮宜シキヲ得ルコト
二、作業軍紀ノ嚴肅ナルコト

問 土質ニ依リ作業器具ハ如何ニ配當スルヲ適當トス

ルヤ

答 一、軟土ヲ掘開スルニハ各兵ニ圓匙ノミヲ配當スルコト
二、尋常土若クハ樹根多キ土地ニ在リテハ適宜ニ圓匙ニ十字鋏
ヲ加ヘ要スレハ斧鉞等ヲ加フルコト
三、凍結シタル地表若ハ硬キ土地ヲ掘開スルニハ十字鋏、鶴嘴

ヲ用ヒ要スレハ石工器具(頭槌、石工楔、石工鑿等)ヲ配當ス
ルコト

問 不熟練ナル一作業手ノ圓匙ヲ以テヌル一時間ノ掘
土量ヲ述ヘヨ

答 概ネ左ノ如シ

- 一、軟土一 立米〇〇〇乃至一立米二〇〇
- 二、尋常土 〇立米七五
- 三、硬土 〇立米四〇〇

問 作業力ハ時間ノ長キニ從テ遞減ス故ニ四時間以上
ニ亘ル作業ニ在リテハ平均一時間ノ掘土量ヲ如何ニ
算スルヲ適當トスルヤ

答 概ネ左ノ如シ

- 一、軟土 ○立米七〇〇
- 二、尋常土 ○立米四五〇
- 三、硬土 ○立米三〇〇

問 一送土區トハ如何ナルコトカ

答 實驗ニ依ルニ熟練ナル作業手ハ圓匙ヲ以テ水平ニハ四米〇〇ノ距離ニ垂直ニハ二米〇〇ノ高サニ投土スルコトヲ得此各距離ヲ一送土區ト謂フ

第二章 作業ノ實施

第一節 前地ノ設備

問 前地ニ於テ敵ノ掩護物トナリ又ハ我展望及射撃ヲ妨クヘキモノアルトキハ如何ニスルヤ

答 成シ得ル限リ之ヲ除去シ之ヨリ得タル物料ハ窪地、溝渠、凹道等

ノ埋填、阻絶若ハ掩蔽部、障礙物、障礙物、偽工事等ノ構設ニ使用スル地ノトス

問 丈ク高キ穀草及高粱稚桑ノ如キ者ハ如何ニスルヤ

答 一、丈高キ穀草ハ之ヲ踏ミ夷ケ又ハ倒スコト
二、高粱及稚桑ノ如キハ之ヲ障礙物ニ應用スルコト

問 前地ニ堆積シタシ藁、木材、堆肥及石類等ハ如何ニスルヤ

答 之ヲ投棄若クハ撤布スヘシ

問 前地ニ於ケル生籬、樹木、叢藪、板塀、脆弱ナル牆壁及輕易ナル建物ハ如何ニスルヤ及此場合ニ於ケル注意ヲ述ヘヨ

答 斧、鋸、十字鋸、大槌等ヲ以テ之ヲ毀却シ堅固ナル牆壁及建物ハ

爆破スヘシ然レトモ此破壊セシ殘片ハ往々以前ヨリ良好ナル掩體
又ハ遮蔽物ト爲リ敵ニ利用セラル、コトアルニ注意スルヲ要ス

問 地物ノ燒却ハ常ニ之ヲ爲シ得ルヤ

答 稀ニ實施スルコトヲ得而カモ我射撃ノ効力ヲ不利ナラシムルノ
患ナキトキニアラサレハ決シテ之ヲ行フヘカラス

問 前地ノ清掃ヲ爲スト同時ニ爲スヘキ凡テノ處置ヲ

問フ

答 一、有効射程内ニアル著明ナル地物又ハ顧慮スヘキ地點ニ至ル
距離ハ測量機械歩測若クハ地圖ニ依リ測定スルコト

二、若シ此等ノ地物ナキ時ハ必要ナル地點ニ目標(樹枝、束藁等
樹テ或ハ石片ヲ集積シ又ハ堆土ヲ設クル等)ヲ設置スルコト

三、又成シ得レハ略圖(目標ノ形狀、之ニ通スル方向並距離等

記載シタルモノ)ヲ製シ之ヲ火線ニ標定スルコト

第二節 散兵壕、掩壕及交通壕

問 散兵壕ハ如何ナル射撃ノ姿勢ニ適應スル如ク構築
スルヲ適當ト爲スヤ

答 立射用ニ構築スルヲ通則トス故ニ準備セル陣地ニ於テ常ニ之ヲ
構築スルハ勿論時機切迫ノ際構築シタル掩體ト雖情況之ヲ許スニ
至レハ立射散兵壕ニ改築スヘキモノトス

問 立射散兵壕ノ火線ニ據ル散兵ノ銃ヲ使用スルニ適
當ナル正面幅及平均照準高ヲ問フ

答 一、正面幅、一步

二、平均照準高、一米三〇

問 散兵壕ノ火線ハ高低何レヲ有利トスルヤ

答 前地ヲ充分ニ射撃スルニ妨ケナキ限リカメテ之ヲ低クシ若クハ全ク自然地上ニ之ヲ置クヲ有利トス

問 散兵壕ノ火線ヲカメテ低クシ若ハ全ク自然地上ニ置クハ如何ナル場合ニ用ヒラルヤ

答 此種ノ散兵壕ハ現地ノ状態之ニ適スルハ稀ニシテ其工事ハ困難且著大ナル時間ヲ要シ位置ニヨリ其後崖ハ敵ニ暴露シ易シ故ニ地形恰當シテ充分時間ノ餘裕アルトキニアササレハ實施シ能ハサルモノトス

問 工事容易ニシテ速ニ竣工シ得ヘキ立射散兵壕ノ胸墻ノ厚サヲ問フ

答 通常一米〇〇ニテ足ル然レトモ土質ニヨリ不充分ト認ムルトキハ後崖ノ土量ヲ取リ之ヲ増加スヘシ

問 同シク臂坐ノ幅員及其用途ヲ問フ

答 高サ〇米二〇、幅〇米三〇ニシテ照準ノ際臂ヲ支フルノ用ニ供スルモノトス

問 同シク壕幅ヲ説明セヨ

答 自然地ニ在リテハ一米二〇トシ壕底ノ小極チ〇米八〇トス

問 工事容易ニシテ速ニ竣工シ得ヘキ立射散兵壕ノ自然地ヨリスル壕深、臂坐高、火線高ヲ問フ

答 一、壕深、〇米八〇
二、臂坐高、〇米三〇
三、火線高、〇米五〇

問 胸墻ノ内斜面ハ緩急何レヲ可トスルヤ及其理由ヲ述ヘヨ

答 内斜面ハカメテ急峻ナラシメ爲シ得レハ臂坐以下ヲ被覆スヘシ

是レ射撃ニ便ニシテ且壕内ノ掩護ヲ確實トラシメンカ爲ナリ

問 散兵壕ノ内斜面ニ「足掛」リヲ設クルハ何故ナルヤ

答 進出ニ便ナランカ爲ナリ

問 掘擴散兵壕トハ何カ

答 既成立射散兵壕ヲ掘擴シテ造リタルモノヲ謂フ

問 掘擴散兵壕ヲ構築スル場合ヲ問フ

答 一、散兵ノ背後ニ安全ナル交通ヲ要スルトキ

二、時間ノ餘裕アルトキ

問 作業中敵襲ヲ受クヘキ虞アルトキ又ハ作業力不足

アルトキハ如何ナル注意ヲ以テ散兵壕ヲ構築スルヤ

答 少クモ膝射散兵壕ヲ竣工スルヲカメサルヘカラス而シテ情況之

ヲ許スルニ至レハ直ニ之ヲ立射散兵壕ニ改築スルモノトス

問 膝射散兵壕ノ壕幅ヲ問フ

答 自然地ニ於テ一米二〇トシ壕底ニ在テハ一米〇〇トス

問 膝射散兵壕ニ於ケル自然地ヨリノ壕深、臂座高、

火線高ヲ述ヘヨ

答 一、壕深、(一米五)

二、臂座高、〇米一〇

三、火線高、〇米三〇

問 散兵壕ヲ階段狀ニ重層シテ設クル場合ヲ問フ

答 地域狹隘ニシテ且地形適當ナルトキトス

問 散兵壕ニ二列射撃ノ設備ヲ爲ス場合ヲ問フ

答 優勢ナル火力ヲ發揚スヘキ火線ニシテ其延長不足ナルトキ例外

トシテ設備スルモノトス

問 散兵壕ニ二列射撃ノ設備ヲ爲ス方法ヲ述ヘヨ

答 土質ニヨリ踏築ノ幅ヲ〇米六〇乃至〇米七〇ニ制限シ成シ得レハ被覆ヲ施シ幅〇米六〇ト爲ス

問 作業中岩石若ハ湧水等ニ出會スルトキハ如何ニ所置スルヤ

答 適宜ニ壕ノ深サヲ減シテ幅ヲ増加シ或ハ内外兩側ニ壕ヲ掘開シテ胸牆ヲ設ク

問 軟岩地或ハ氷結シタル土地ニシテ掘開ニ困難ナルトキハ如何ニスルヤ

答 隙メ土凝(若クハ砂、砂利土、石塊ヲ填實シタル箱糲土俵等)ヲ準備シ胸牆ヲ設ク

問 氷結シタル土地ノ掘開法ヲ述ヘヨ

答 一、先ツ鑿嘴、十字鋸或ハ石工器具ヲ以テ地表面ヨリ凍結セサル土層ニ達スル溝ヲ穿ツコト
二、地面ヲ適宜ノ大サヲ有スル土塊ニ區別シ挺子類ヲ以テ之ヲ撥木起スコト

三、溝ヲ穿チタル位置ニ焚火ヲ爲シ地面ノ融解ヲ促スコト
四、若シ作業ヲ中止シ後再ヒ之ヲ掘擴スルノ企圖アルトキハ作業後蕭蕞等ヲ用ヒ其表面ヲ掩覆シ置クコト

問 掩壕トハ何カ及其構築法ヲ述ヘヨ

答 掩壕ハカメテ土地ニ依リテ掩護シ散兵壕ト同一要領ニ由リ築設スルモノニシテ射撃設備ヲ廢シ約一米七〇ノ掩護高(壕底ヨリ掩體上ニ至ル高サ)ヲ與フルモノトス

問 掩壕内ニ施スヘキ設備ヲ問フ

答 一、速ニ進出シ得ル爲所々ニ「足掛リ」ヲ設ケ其兩端ニ「コ」亦斜板

若ハ階段ヲ設クルコト

二、兵員ノ掩護ヲ確實ニスル爲掩壕内ニ多クノ掩蔽物並ニ横牆ヲ設備スルコト

問 交通壕ヲ設クルハ何故ナルヤ

答 散兵壕下掩壕間ニ於テ若シ地形ノ掩護ナキトキニ於テ安全ナル連絡ヲ保持スル爲トス

問 交通壕ノ經始ヲ爲スニ方リ注意スヘキ事項ヲ問フ

答 一、敵ノ縱射ヲ避ケ得ル如ク其方向ヲ選定スルコト

二、所々ニ横牆或ハ掩蓋ヲ設ケ或ハ電光形鋸齒形ニ經始スルコト

三、カメテ地區地物ヲ利用シ其作業ヲ減スルニ注意スルコト

問 交通壕ノ掩護高ヲ問フ

答 一米七〇トス

問 交通壕ノ底幅ヲ問フ

答 〇米五〇ヲ小極トス

問 情況急迫ナル場合ニ在リテモ尙交通壕ヲ設クルノ要アリヤ

答 情況急迫ナル場合ニ在リテモ單獨兵ノ辛フシテ交通シ得ル交通壕ヲ構築シ得ハ交戦間大ナル利益アルモノトス若シ之ヲ設クルノ違ナキトキト雖遮蔽物ヲ所々ニ配置シ遮蔽シタル交通壕ヲ得ルニカムルモノトス

問 散兵壕ヲ構築スルニ方リ其部署ヲ説明セヨ

答 通常各中隊ニ於テ作業班ヲ編成シ方匙(圓匙)小十字鉄(十字鉄)ヲ携帶スル兵卒ヲ以テ土工ニ充テ其ノ他ノ下士卒ハ距離ノ測定經始線ノ標示其他特別ノ作業ニ用ヒ或ハ交代兵等ニ使用スルモ
フトス

問 散兵壕ノ經始線ハ如何ニシテ之ヲ標示スルヤ

答 一、中隊ノ部署ヲ行フ以前若ハ之ト同時期ニ中隊長ハ若干ノ將校下士卒ト共ニ掘開スヘキ散兵壕ノ火線ヲ決定シ標兵若ハ杭土囊繩等ヲ以テ標示スルコト
二、將校ハ要スレハ伏臥シテ火線ノ各部ヨリ前地ヲ掃射シ得ルヤ否ヲ點檢シ火線ノ高サ並横溝ヲ設クヘキ箇所ヲ決定スルコト

問 散兵壕ノ構築ニ方リ兵卒作業ノ順序及方法ヲ問

フ

答 一、兵卒ノ作業ニ就クヘキ準備終ルヤ決定シタル線上ニ概木片手(約一米〇〇ノ間隔)又ハ兩手間隔(約一米五〇)ヲ以テ匙手ヲ配置シ尙其後方ニ鉄手ヲ分配スルコト
二、匙手ト鉄手トノ數ハ掘開スヘキ土質ニ因リテ決定シ要スレハ斧、鉋、鋸等ノ豫備器具ヲ備ヘ作業實施間必要ニ應シテ使用セシムルコト
三、作業手ノ配置終レハ各匙手ハ方匙(圓匙)ヲ近ク足尖ノ前ニ突キ入レ(銃ヲ携帶シアルトキハ之ヲ後方若干歩ノ所ニ置キ)右方陣兵ノ位置ニ至ルマテ小溝ヲ掘シ以テ壕ノ前縁ヲ標示スルコト
四、尋テ同法ニヨリ後縁ヲ掘シ然ル後前縁ヨリ掘開ニ着手スルコト

問 作業手ノ交代ハ如何ニスルヤ

答 通常二時間以上ニ亘ル作業ニ限リテ之ヲ行フモノトス然レトモ其疲勞セルトキ及方匙ヲ以テ作業スル場合ニ在リテハ適宜ニ交代ヲ早クスルヲ良トス

問 掘開ヨリ得タル土塊若クハ糾草ハ如何ニスルヤ

答 内斜面ノ被覆ニ應用スルモノトス

問 胸墻ニ撒布セシ積土ハ如何ニスルヤ

答 相應ノ高サニ達スル毎ニ之ヲ踏固メ或ハ搗固メテ之ヲ堅實ナラシムルヲ要ス

問 散兵壕ヲシテ敵ノ目視ヲ避ケシムル爲必要ナル處置ヲ問フ

答 一、凡テ積土ハ其近傍ノ天然物等ヲ以テ之ヲ掩ヒ其外觀ヲシテ

周圍ノ自然地ト區別シ難カラシムルコト

二、又敵ニ瞰臨セラル、土地若ハ前方ニ降下スル斜面ニ散兵壕ヲ設クルトキハ後崖頂ヲ圓削シ遮蔽若クハ假裝ヲ施スコト

問 作業間敵襲ヲ受クルノ虞アル爲先ツ膝射散兵壕ヲ

構築スルヲ要スルトキハ如何ニ之ヲ實施スルヤ

答 掘土ヲ火線ニ近ク積土シ先ツ自己ノ掩體ヲ作り漸次左右ニ及ホシテ一連ト爲シ其後更ニ之ヲ超ヘテ投土シ以テ其厚サヲ増加シ完成ニ至ラシム

此際作業手ヲシテ最初二人ツ、連接シテ作業ヲ開始スルトキハ速ニ應急ノ掩護ヲ受クルヲ得ヘシ

問 敵火ノ下ニ在リテ作業セサルヘカラサルトキハ如

何ニ動作スルヤ

答 一、方匙(圓匙)ヲ携帶スル散兵ハ銃ヲ後方身邊ニ置キ伏臥シテ先ツ自己ノ伏射ノ用ニ供スル爲〇米三〇ヨリ高カラサル箇々ノ掩體ヲ設ケ然ル後方匙(圓匙)ヲ有セサル比隣ノ兵ニ器具ヲ交附スルコト

二、逐次此ノ如クシテ連續セル一掩體タルニ至ラシメ必要ニ應シテ之ヲ増築スルコト

第三節 横牆及背牆

問 横牆ヲ設クルヲ必要トスル理由ヲ問フ

答 散兵壕掩體ハ其經始ニヨリ側射、斜射ノ害ヲ避クルノミナラス尙其壕内ニ横牆ヲ設ケテ之ヲ防止シ且壕ノ附近ニ破裂スル砲彈ノ威力ヲ制限スルノ必要アレハナリ

問 横牆ノ高サ、長サ及厚サヲ述ヘヨ

答 一、横牆ノ高サハ通常胸牆ヨリ高起セシメサルコト
二、其長サハ壕ノ全幅ヲ閉塞スルコト
三、其厚サハ火線ノ所ニテ約一米〇〇トス

問 横牆周邊ノ交通ハ如何ニスルヤ

答 迂回路ヲ設クルモノトス

問 迂回路ノ底幅ヲ問フ

答 小極〇米五〇トス

問 背射ヲ受クルノ恐レアル散兵壕ニ在リテハ其害ヲ

避クル爲如何ナル處置ヲ行フヤ

答 其壕幅ヲ小極(止ムヲ得サレハ〇米六〇)ニ減却シテ背牆ヲ設ケ而シテ背牆ノ高サハ眞ニ必要ナル度ニ止ムヘキモノトス

第四節 掩蔽部

問 掩蔽部ヲ設置スルハ何故ナルヤ

答 火戦ニ參與セサル間兵員ヲ敵砲彈ノ危害ニ對シテ掩護スル爲設
ケルモノトス

問 掩蔽部ハ如何ナル場所ニ設置セラルハヤ

答 散兵壕、掩壕及交通壕ノ側方ニ設ケル小掩壕内ニ設置セラル、
モノトス

問 掩蔽部ハ少數ノ強固ナルモノヲ設クルト多數ノ簡
易ナルモノヲ設タルト何レカ有利ナルヤ及其理由ヲ

説明セヨ

答 戦場ニ於テ威力ヲ逞フスル彈子及破片ニ對シテハ輕易ナル掩蔽
部ニ由リ充分ニ掩護ノ目的ヲ達シ得ヘシト雖爆裂榴彈ニ對シテハ

現地ニ於テ收集シ得ヘキ材料ヲ用ヒ構築シタル掩蔽部ニ由リ防護
スルコト難シ故ニ少數ノ強固ナル掩蔽部ヲ設ケルヨリ寧ロ多數ノ
簡易ナル掩蔽部(約六人用)ヲ構築シ榴彈ノ危害ヲ一掩蔽部ニ制限
スルノ勝レルニ如カス

問 情況ニヨリ掩蔽部ヲ設クル能ハサル場合壕内掩護

ノ度ヲ増加スルニハ如何ニスルヤ

答 成ルルハ深ク壕ヲ掘リ下ケ内斜面ヲ急峻ニ削ルヲ要ス

問 掩蔽部ヲ有セサル散兵壕並掩蔽壕内ニ於テ待機間

散兵ハ砲彈ノ危害ヲ避クル爲如何ナル姿勢ヲ爲スヤ

答 壕ノ内斜面ニ背部ヲ密接シテ^{アグラ}^{ナゲン} 伏坐若ハ箕踞シ或ハ踏壕ニ腰掛ケ
アルモノトス

問 掩蔽部ノ啓開セル入口ハ如何ニスルヤ

答 砲彈ノ彈子及破片ニ對シ掩護スル爲厚サ約〇米ハ五以上ノ板ヲ用ヒ之ヲ閉鎖スルモノトス

第五節 附屬設備

問 長時日守備スヘキ壕内ニハ如何ナル設備ヲ必要トスルヤ

答 概ネ左ノ如キ設備ヲ爲スヲ要ス

- 一、壕内殊ニ深ク地中ニ設ケタル掩蔽部内ニ雨水ノ浸入スルヲ防キ又壕内ノ排水ヲ確實ナラシムル爲壕底ヲ後方ニ傾斜セシメ後崖脚ニ溝ヲ設ケテ之ヲ壕外ニ導キ或ハ水抜井ヲ設クルコト
- 二、又飲用水ヲ準備シ必要ニ應ジ井ヲ穿ツコト
- 三、掩蔽部内又ハ内斜面、若ハ横牆ノ後面内ニ彈藥置場、手榴

彈置場ヲ設ケ特ニ雨露ニ對シテ防護シ爲シ得レハ箱ノ儘格納シ得ル幅員ヲ與フヘシ但手榴彈ハ彈藥ト隔離シ成ルヘク深ク其置場ヲ地中ニ設ケ且決シテ一箇所ニ多數ヲ格納スヘカラサルコト

- 四、繃帶所及通信所ハ之ヲ掩壕若ハ交通壕ノ側方ニ設ケタル小掩壕内ノ掩蔽部ニ設備スルコト
- 五、壕内所々ニ道標及燈火ヲ設ケテ交通及標識ニ便ナラシメ又夜間射撃ノ爲必要ナル設備ヲ爲スコト
- 六、厠ハ散兵壕又ハ掩壕ヨリ小距離ヲ隔テ、設ケ壕ヲ以テ連絡スルコト

問 展望孔ヲ有スル監視所ヲ設クルハ何故ナリヤ

答 斷ニス前方ヲ安全ニ監視スル爲ナリ

問 展望孔ヲ構築スルニ際シ殊ニ切要ナルコトハ何

カ

答 外口ノ高サヲカメテ小ニシ敵ニ認識セラレサルコト、ス

問 展望孔ヲ構築スルノ違ナキトキハ如何ナル處置ヲ爲スヤ

答 適當ナル位置ヲ選ミ展望兵ノ直立シ若ハ腰ヲ掛ケ胸牆ヲ超エテ

前地ヲ展望シ得ル如ク設備シ胸牆上ニハ樹枝ノ類ヲ植テ敵ノ目撃

ニ對シ展望兵ノ頭部ヲ遮蔽スル如クスルヲ要ス

問 帽堡、或ハ掩蓋、銃眼等ハ如何ナル場合ニ設クル

モノナルヤ

答 一定ノ方向ニノミ射撃スヘキ散兵壕ニ時トシ胸牆上ニ設クルモ

ノトス

第六節 障碍物

問 障碍物ノ目的ヲ述ヘヨ

答 最有効ナル射程内ニ在リテハ敵ノ驀進ヲ阻支シ又ハ奇襲ヲ防遏スルニアリ

問 障碍物ヲ設置スルニ方リ注意スヘキ事項ヲ問フ

答 一、障碍物ハ我射撃ヲ妨クルコトナク又我火力ヲ以テ掩護セラレサルヘカラサルコト

二、障碍物若シ敵ニ暴露シアルトキハ其價値ヲ減却スルノミナラス陣地ヲ認識スルニ最モ適切ナル準據ヲ與フルモノナリ故ニカメテ之ヲ隠蔽スルコト

問 障碍物中最多ク使用セラル、ハ何カ

答 鹿砦及鐵條網トス

問 障害物ヲ設置スルニ方リ之ヲ保護スル爲ニハ如何ナル注意ヲ要スルヤ

答 一、暗夜ニ在リテモ尙其保護ヲ全フスル爲火線前ニアルモノハ三〇米〇〇以内ノ地域ニ設クルコト
二、又火線ヲ距ル遠キ位置ニアルモノハ必ス其附近ニ監視壕ヲ設ケ夜間ニ於ケル警戒及防禦ニ便ナラシムルコト

問 鹿砦トハ何方

答 樹幹又ハ大ナル樹枝ヲ重ネテ地上ニ排列シタルモノヲ謂フ

問 鹿砦ノ種類ヲ問フ

答 樹幹鹿砦及樹枝鹿砦トス

問 樹幹鹿砦ハ如何ナル所ニ應用セラル、ヤ

答 火線前ノ死角、防禦工事間隙ノ閉塞、凹道及凹窪ノ阻絶等ニ應用

セラル、モノトス

問 樹幹鹿砦ヲ構設スルニハ如何ニスルヤ

答 一、樹幹ノ梢端ヲ敵方ニ向ケ尙後列ノ梢頭ヲ以テ前列ノ樹幹ヲ掩フ如ク之ヲ數列ニ置ク

二、若シ横材、鉤杭、又杭ヲ以テ土地ニ固定シ鐵線ヲ以テ樹幹及樹枝ヲ互ニ纏結スレハ其障碍ノ度ハ益々増加スルモノナリ

問 樹枝鹿砦ハ射撃及展望ヲ妨碍セサル爲ニハ如何ニ

設置スルヲ可トスルヤ

答 成ルヘク低ク設置ス故ニ地形ニ依リテハ淺ク掘開シタル壕内ニ設置スルヲ要スルコトアリ

問 樹枝鹿砦ノ構設法ニ就テ必要ナル事項ヲ述ヘヨ

答 一、枝條繁茂シテ開張シタル闊葉樹ノ腕大ノ太サヲ有スル樹幹

及樹枝ヲ伐採シ其細枝ヲ截除シ稍大ナル枝ヲ尖ラシテ數列ニ地中ニ植立スルコト

二、鹿砦ノ各列毎ニ三角断面ノ壕ヲ掘開シテ此所ニ樹枝ヲ植テ其間ニ長サ約一米五〇ノ横材ヲ挿入シ強キ又杭若ハ鈎杭ヲ以テ之ヲ土地ニ固定スルコト

三、要スレハ鐵線ヲ以テ彼是緊結スルコト

四、此鹿砦ハ樹枝ヲ密接ニ配列シテ深サ小ナルモノヨリハ稍疎ナルモ寧ロ深サノ大ナルニ利アルコト

五、壕ノ外斜面或ハ凹道等ニ於テ樹枝鹿砦ヲ構設シ超越シ能ハサル深サヲ與フルトキハ有利ナル障礙ト爲スヲ得ルコト

六、鐵線ヲ以テ樹枝ノ交叉ヲ纏結シ尙之ヲ不規則ニ枝條中ニ張ルトキハ頗ル其効力ヲ増加スルヲ得ルコト

問 鐵條網トハ何カ

答 植立シタル杭又ハ天然ノ樹桿ヲ支點トシ諸方向ニ鐵線ヲ張リタルモノヲ謂フ

問 鐵條網ノ構設法ヲ述ヘヨ

答 一、鐵條網ヲ構設スルニハ長サ 米八〇乃至二米五〇、太サ約〇米一五ナル杭ヲ堅固ニ地中ニ打チ込ミ其高サハ各不等ニシテ平均一米二〇其間隔モ亦不等ニシテ平均二米〇〇トシ八番鐵線(〇米〇〇四)若ハ六番鐵線(〇米〇〇五)ヲ以テ各杭ノ脚點ヨリ他杭ノ頭部ニ向ヒ交叉シタル方向ト各杭ノ頭部ト地上約二握リノ所トノ二箇所ニ於テ各杭間ニ水平ニ張リ然ル後尙此太キ鐵線ノ間ニ〇米五〇乃至〇米七〇ヲ間シテ種々ノ方向ニ細キ鐵線ヲ張リテ網狀ヲ成形スルコト

二、太キ鐵線ハ杭ニ一回纏チナシ釘若ハ此鐵線片ヲ以テ容易ニ作リ得ヘキ錠ヲ以テ固定シ細キ鐵線ハ之ヲ杭及太キ鐵線ノ某點ニ纏フテ固定スルコト

三、有刺鐵線ヲ以テ太キ鐵線ニ併用セハ障礙ノ度ヲ増加シ得ルコト

問 鐵條網ヲ設置スルニ方リ注意スヘキ事項ヲ述ヘヨ

答 鐵條網ノ深サ愈々大ナレハ益々効力アリ故ニ少ナクモ其深サヲ一〇米〇〇ト爲スナ良トス然レトモ夜襲ノ虞アル地點ニアリテハ之ヲ數線ニ設クルヲ利アリトス
此ノ如キ鐵條網ハ大ナル効力アリト雖遠距離ヨリ容易ニ認識セラ
ルヘキ不利アリ故ニ之ヲ設クルニハ成ルヘク地物ヲ利用シ要スレ
ハ遮蔽ヲ施シ或ハ鐵線ノ光澤ヲ去リ杭ノ新シキ截面ヲ汚塗スル

等適當ナル方法ヲ講スヘシ

此方法ニ依ルハ敵ノ認識ヲ避クル能ハサルトキハ其高サヲ減シテ深サヲ増加スルカ又ハ淺キ壕内ニ構設スルヲ可トス

問 鐵條網ヲ構設スルニ方リ若シ時間ト材料ノ少ナキ

トキハ如何ニスルヤ

答 尙短キ杭ヲ植立シ地上約〇米三〇乃至〇米五〇ノ高サニ於テ縱横及對角線ニ鐵線ヲ張ルモ障礙ノ用ヲ爲シ得ヘシ
其他不規則ニ配置シテ地上ニ固定シタル短キ鐵線係蹄^{ワナ}モ亦單簡ナル障礙タルヲ得ルモノトス

問 敵ヲ距ル近キ所ニ鐵條網ヲ構設スルヲ要スルトキハ如何ニスルヤ

答 先ツ豫メ一列ノ鐵條網(通常其長サ約四米〇〇ト爲ス)ヲ準備シ

之ヲ卷キテ夜間所望ノ地ニ搬送シ一舉ニ數列ヲ植杭シ各列間ニ網
狀ヲ成形スルヲ良トス

問 斥候其他監視兵ノ夜間出入口ヲ障碍物内ニ設クル
ヲ要スルトキハ如何ナル處置ヲ爲スヤ

答 單獨兵ノ匍匐シテ出入シ得ヘキ小孔ヲ設ケ拂曉前之ヲ閉塞若ハ
遮蔽スルノ處置ヲ爲スヲ要ス

問 氾濫ノ構設法ヲ問フ

答 溝渠河谷等ニシテ水量充分ナラサルモ適當ナル注水アルカ或ハ
人工ニヨリ之ヲ導キ得ヘキトキハ堰堤ヲ設ケ流水ヲ阻止シテ氾濫
ヲ構設ス

問 効力充分ナル氾濫ノ深サ及幅ヲ問フ

答 其全幅ノ水深充分ナラサルモ其一溝線ニ於テ深サ一米八〇幅二

米〇〇以上トス

問 小杭トハ如何ナルモノカ

答 兩端ヲ尖ラシタル長サ〇米五〇乃至〇米六〇ノ樹桿或ハ竹ヲ相
互不等ノ距離(〇米二〇乃至〇米三〇)ヲ間シ地上不等ノ高サ(〇
米二五乃至〇米三〇)ニ植立シタルモノヲ謂フ

問 小杭ハ如何ナル所ニ使用セラル、ヤ

答 壕底其他小區域ノ障碍ニ用フルモノトス

問 拒馬トハ何カ

答 太キ木桿(徑約〇米一五)サ約三米〇〇ヲ有スルモノノ周圍ニ
於テ十字ニ交叉シタル方向ニ一米〇〇ヲ隔テ各一本ノ尖桿(長サ
二米〇〇)ニシテ兩端ヲ尖銳ニセル竹或ハ細キ木桿)ヲ固定シ其間
二十番鐵線(〇米〇〇三)ヲ不規則ニ張り障碍ノ用ニ供スルモノヲ

謂フ

問 拒馬ハ如何ニシテ設置スルヤ

答 之ヲ地上ニ配列シテ相互連絡シ要スレハ杭ヲ以テ所々ノ土地ニ固定シ尙其間ニ鐵線ヲ張ルトキハ一連ノ障礙線ヲ爲スヲ得ヘシ

問 拒馬ハ如何ナル所ニ使用セラル、ヤ

答 氷結地又ハ岩石地ノ碍碍ニ選用セラル、モノトス

問 有効ナル障礙トナル壕ノ幅及深サヲ問フ

答 幅四米〇〇深二米五〇以上トス

問 徒涉ト超越トヲ許サ、ル水壕ノ深サ及幅ヲ問フ

答 深サ一米八〇幅四米〇〇以上トス

第七節 地物ノ利用

問 掩體及障礙ニ應用シ得ヘキ地物ヲ問フ

答 地上到ル所ニ存在スルヲ常トス即チ

土地ノ小起伏、森林、圍牆、建物及村落等ノ如キ是ナリ

問 巧ニ地物ヲ應用スルト否トハ築城ニ如何ナル關係ヲ及ホスヤ

答 一、作業ノ時間ニ大ナル關係ヲ有スルコト

二、築城ノ價值ニ著シキ差異ヲ與フルコト

問 溝、壕、凹道、凹窪等ヲ應用スル手段ヲ述ヘヨ

答 一、其形狀ニ應シ之ニ踏梁、階段、斜坡等ヲ設備スルコト
二、之ヲ障礙ニ利用シテ其後方ニ散兵壕ヲ設クルコト

問 築堤ノ應用法ヲ述ヘヨ

答 一、狹キ築堤ニ在リテハ敵ニ反對スル一側ニ射撃ノ設備ヲ爲スコト

二、築堤高ク又廣クシテ敵ニ反對スル一側ヨリ充分前地ヲ展望シ得サルトキハ敵側ノ一部ニ掩體ヲ設クルコト

三、背後ノ斜面トノ交通ハ壕ヲ以テ連絡スルヲ可トス

問 急斜面、斷崖等ノ直後ニ散兵壕ヲ設クル場合ニ在リテハ火線ヲ何處ニ選ムヲ可トスルヤ

答 將來尙其斷面ヲ強固ナラシムルヲ要スヘキヤ否ヤヲ顧慮シ適當ニ線端ヨリ後退シタル位置ニ選ムヲ可トス

問 生籬ノ應用法ヲ問フ

答 生籬ハ主トシテ遮蔽ニ適用ス而シテ充分密生シ且高キモノハ良好ナル障碍物トナリ尙鐵線ヲ編ミ込ミ強固ナラシムレハ一層其度ヲ増加スルモノトス
散兵壕ハ其背後ニ設ケ外面ヨリ認識シ得ヘキ處置ハ一切之ヲ避ケ

ルヲ要ス生籬ヲ貫通シテ銃眼ヲ切開スルモ亦然リ但シ銃眼ハ散兵ヲシテ各自ニ開設セシムルヲ可トス

問 高梁ノ應用法ヲ述ヘヨ

答 高梁ハ地上約〇米六〇ノ所ニ於テ一側ニ折リ倒シ之ヲ彼是纏結スレハ射場ノ清掃ヲナスト共ニ有利ナル障碍物トナスヲ得ヘシ

問 稚キ桑樹ノ應用法ヲ問フ

答 其軟枝ヲ彼是纏結スレハ障碍物ニ利用スルヲ得

問 板塀ノ應用法ヲ述ヘヨ

答 概木生籬ノ如ク之ヲ應用シ得ヘシ然レトモ往々之ヲ毀却シテ其木材ヲ掩蔽部又ハ被覆等ノ用ニ供スルヲ利トスルコトアリ

問 鐵柵ヲ障碍物ニ利用スルトキハ如何ナル顧慮ヲ要スルヤ

答 其背後ニ守兵ヲ配置セントスルトキ是ニ觸レテ破裂スヘキ敵彈ノ威力ヲ顧慮スルヲ要ス

問 各種ノ墻壁ヲ應用スルニ方リ必要ナル事項ヲ述ヘ

ヨ

- 答 一、墻壁ハ其高サ充分ナルトキハ良好ナル障礙物トナリ又適當ノ厚サヲ有スルトキハ小銃彈、彈子、破片ヲ防グニ足ル然レトモ爆裂榴彈ニ對シ充分ナル抗力ヲ有スルモノハ稀ナリ
- 二、着達スル小銃彈、彈子及破片ノ威力ヲ減殺スル爲墻壁頂ニ糾草、土囊等ヲ冠スレハ併セテ良好ナル銃ノ依托物ヲ得ヘシ
- 三、高キ墻壁ニハ銃眼ヲ穿開スヘシ
- 四、墻壁ノ高サ充分ナルトキハ上下ニ重疊スル數階ノ火線ヲ設クルコトヲ得ヘシ此場合ニ於ケル踏臺ハ堅固ニ構成スルヲ必

要トス

五、墻壁ノ厚サ〇米五〇以下ナルトキハ其上部ヲ破壞シ殘留スル部分ヲ内斜面ノ被覆ノ如ク利用シ其前方ニ積土シテ之ヲ強固ニスルヲ適當トス

問 墻壁ニ銃眼ヲ穿ツニハ如何ニスルヤ

答 左右若ハ上下ニ射撃スルヲ要スルニ應シ水平、若ハ垂直ニ設ケ通常其外面ヲ狹クス然レトモ厚キ墻壁ニハ中央ニ狹ク内外兩面ニ廣ク穿開スルヲ可トス

問 森林ヲ占領スルニ方リ散兵壕ハ何レニ設クルヲ適當トスルヤ

答 林縁ヨリモ壕口其前方ニ設クルヲ以テ適當ナリトス若シ疎林ナルトキハ林縁ヨリ若干後退シテ占領スルモ亦可ナルコトアリ

第三章 歩兵ノ攻撃作業

第一節 通則

問 攻撃作業ノ主ナルモノハ如何

答 歩兵陣地及交通壕ノ築設トス

問 對壕作業トハ何カ

答 要塞戰ニ於ケル攻撃作業ヲ謂フ

問 對壕作業ハ如何ナル利益ヲ有スルヤ

答 最困難ナル情況ニアリテモ此作業ニ依リ火戰ヲ行ヒ突撃ヲ實施スルニ至ルマテ前進シ得ヘキモノトス

問 歩兵陣地ニ適スル單簡ナル断面ヲ述ヘヨ

答 掘擴散兵壕ニシテ嗣後必要ニ應シ之ヲ掘擴スルモノトス

問 歩兵陣地相互ト後方地區トノ連絡ヲ安全ナラシム

ルニハ如何ニスルヤ

答 必要ニ應シ電光形交通壕ヲ掘開スルモノトス

問 防者ノ攻撃作業ヲ以テ前進スル場合ヲ問フ

答 一、攻者ノ對壕ヲ側射若クハ縱射シ或ハ之ヲ破壞スルトキ
二、攻者ヲ其陣地ヨリ驅逐セントスルトキ

第二節 對壕ノ實施

問 對壕ヲ實施スルニ方リテハ如何ナルモノヲ利用スルヤ

答 地區、地物、敵ノ遺棄シタル工事、地雷並榴彈ノ噴火孔等ノ如キ
苟クモ作業ノ進捗ヲ容易ナラシムヘキモノハ細大洩サス之ヲ利用シ剩ス所ナキヲ必要トス

問 歩兵陣地ヲ構築スルニ際シ之ヲ完成セシムル爲如

何ナル注意ヲ必要トスルヤ

答 假令短夜ニ於テモ又困難ナル情況ニ在リテモ一夜ニ掘擴散兵壕ヲ竣工スルコトニ努力セサルヘカラス若シ成シ得サルトキハ第一夜拂曉前ニ壕底廣キ立射散兵壕ヲ完成スルヲ要ス

問 交通壕ノ掩護高ヲ問フ

答 先ツ約一米七〇ニシ後ニ至リ尙所要ニ應シテ掘深スルモノトス

問 交通壕壕底ノ幅員ヲ問フ

答 先ツ約一米〇〇ニシ後ニ之ヲ約一米五〇ニ掘擴スヘキモノトス

問 軍隊ノ對壕作業ヲ實施スルニ方リ豫メ教習スヘキ事項ヲ問フ

答 一、土工器具ノ分配及其携帶法
二、小銃ノ携帶法

- 三、作業地ノ進入
- 四、作業手ノ配置
- 五、壕ノ掘開法

問 對壕作業ノ教習ニ際シ嚴密ニ教示スヘキ事項ヲ述

ヘヨ

- 答 一、命令及號令ハ低聲ヲ以テスルコト
- 二、談話、喫煙、點火ヲ禁スルコト
- 三、區隊ノ進入ニ方リテハ縱隊ヲ分離セシメサルコト
- 四、進入、配置及作業ハ最靜肅且沈著ニ施行シ躁急ノ動作アルヘカラス

又特ニ土工器具ニ水筒及武器(軍刀、銃、銃劍)ノ觸撃ヨリ發スル音響ヲ避クヘキコト

五、進入竝作業間探照燈ノ類ヲ以テ照明セラレタルトキハ直ニ地上ニ伏臥シ照明中ニハ毫モ身體ヲ動カサ、ルコト

問 對壕作業中敵襲ニ際シテハ作業手ハ如何ニ動作スルヤ

ルヤ

答 戦闘ニ參與スルモノトス故ニ斷ヘス之ニ對スル準備ヲ缺クヘカラス而シテ敵ヲ擊退セハ成ルヘク速ニ作業ヲ開始スヘシ

第三節 轅土對壕及深對壕

轅土對壕トハ如何

答 轅土對壕トハ掩蔽セラレテ歩々前進スル對壕ヲ謂フ

問 轅土對壕ノ區別ヲ問フ

答 其掩體ヲ一側ニ設クルト兩側ニ設クルトニ從テ轅土單對壕ト轅土重對壕トニ區別ス

問 轅土ヲ以テ前進スル場合ヲ問フ

答 轅土ヲ以テスル前進ハ時間ヲ費スコト甚大ナリ故ニ之ヲ用フルハ掩蔽ナクシテ作業シ得サル場合ニ限ルモノトス即チ
一、敵ニ近迫シ掩蔽シテ攻撃作業ヲ進メントスルトキ
二、斷續シタル工事ヲ晝間連絡スルヲ要スルトキ

問 深對壕トハ如何ナルモノナルヤ

答 轅土對壕ノ側掩體及頭掩體ヲ廢シ自然物ヲ以テ壕内ヲ掩護シ得ル程度ニ掘深セル對壕ヲ謂フ

第四章 附 錄

第一節 軍隊携行器具

問 携行器具ノ種類ヲ問フ

答 土工器具及木工器具ノ二種トス

問 土工器具ノ名稱ヲ問フ

答 圓匙、鑿嘴、平鋤、方匙、十字鋏、小十字鋏トス

問 木工器具ノ名稱ヲ問フ

答 斧、手斧、鉋、鋸、疊鉋、鉋トス

問 歩兵大隊ニ有スル携帶器具ノ名稱及員數ヲ問フ

答 一、方匙 二百七十二(中隊ニ六十八)

二、小十字鋏 六十八(中隊ニ十七)

三、手斧、三十三(中隊ニ八)

四、疊鉋、二十(中隊ニ五)

問 歩兵大隊馱載器具ノ名稱及員數ヲ問フ

答 一、圓匙、四十八

二、十字鋏、十六

三、斧 八

第二節 掩體ノ厚サ

問 小銃彈ニ對シ必要ナル掩體ノ厚サヲ問フ

答 一、砂 米〇七五

二、土囊ニ容レタル砂 〇米四〇

三、尋常土 一米〇〇

四、重疊シタル糾草泥土二米〇〇

五、踏固メタル雪 二米五〇

六、木材 〇米六〇(槻)乃至一米〇〇(松)

七、鋼板 〇米〇一乃至〇米〇二

八、牆壁 〇米五〇

問 野戰砲彈ノ彈子及破片ニ對シ掩體ノ厚サヲ問フ

答 一、尋常土 ○米四〇乃至一米〇〇
 二、掩蓋ノ木材 ○米〇二乃至〇米〇七
 三、牆壁 ○米二五

問 野戰砲彈ノ全彈ニ對シ掩體ノ厚サヲ問フ

答 一、尋常土 一米〇〇乃至二米〇〇
 二、牆壁 一米〇〇
 三、雪 約八米〇〇

問 野戰榴彈砲ノ彈子及破片ニ對シ掩體ノ厚サヲ問フ

答 一、尋常土 一米〇〇
 二、掩蓋ノ木材 ○米一六
 三、牆壁 ○米二五

問 野戰榴彈砲ノ全彈ニ對シ掩體ノ厚サヲ問フ

答 一、尋常土 三米〇〇乃至四米〇〇
 二、牆壁(平射) 二米〇〇
 三、同(曲射) ○米九〇
 四、比頓壁(曲射) ○米七〇

第三節 被 覆

問 被覆ヲ必要トスル場合ヲ問フ

答 一、土砂ノ自然傾度ヨリ急峻ナル斜面ヲ築ク場合
 二、假令除土部ニ在リテモ其使用頻繁ナルカ或ハ長時日之ヲ使
 用スル場合

問 被覆ヲ行フ時機ヲ問フ

答 通常積土作業ト同時ニ行フモノトス
 問 被覆ノ種類ヲ述ヘヨ

答 一、糾草被覆

二、土嚢被覆

三、板被覆

四、樹枝被覆

五、束柴被覆

六、編條被覆

七、保籃被覆

問 糾草被覆ノ要領ヲ述ヘヨ

答 一、糾草ノ被覆ヲ爲スニハ長幅共ニ約〇米三〇厚サ約〇米一〇

ニ截リ取リタル糾草ノ草面ヲ下方ニシ各層其接合部ヲ交叉スル如ク重疊シ而シテ其内側ニ土砂ヲ填實スルモノトス但シ最上層ノ糾草ハ草面ヲ上ニス

二、若シ所々ニ長キ糾草ヲ置キ深ク之ヲ積土中ニ挿入スルトキハ一層強固ナリトス

三、糾草ヲ高キ胸牆ノ被覆ニ用フルトキハ毎糾草ニ二層ヲ貫シテ串ヲ打入シ以テ上下各層ノ維持ヲ強固ナラシムヘシ

問 土嚢被覆ノ要領ヲ問フ

答 一、交互ニ土嚢ノ短側ト長側或ハ短側ノミヲ斜ニ向テ其接合部

ヲ交叉シテ之ヲ重疊スルコト
二、高キ被覆ヲ爲ストキハ糾草被覆ト同法ニ據ルコト

問 板被覆ノ要領ヲ述ヘヨ

答 一、列杭ノ内側ニ板ヲ置キタルモノニシテ杭ヲ斜面ノ傾度ニ準シ斜面脚ニ打ち込ミ次ニ板ヲ積土側ニ當テ其内方ニ土砂ヲ填實ス而シテ各杭ノ間隔ハ板及杭ノ強度ニ依リ之ヲ定ムルコト

二、被覆ノ高キトキ、杭ノ抗力土壓ニ耐ヘサルトキ若ハ深ク杭
 ナ打チ込ム能ハサルトキハ被覆ニ抑駐ヲ施スコト
 三、堅牢ヲ要スル被覆ニアリテハ各杭上ニ横材ヲ固定シテ之ヲ
 連結スルヲ可トス

問 樹枝被覆ノ要領ヲ問フ

答 板被覆ニ於ケルカ如ク斜面脚ニ適當ノ間隔ヲ以テ杭ヲ打チ込ミ
 其内側ニ樹枝ヲ層積シ以テ土ノ脱漏ヲ防クモノトス

問 信地編條ノ要領ヲ述ヘヨ

答 先ツ〇米三〇乃至〇米五〇ノ間隔ヲ以テ杭ヲ斜面脚ニ打チ込ミ
 要スレハ其上端ニ貫板等ヲ施シテ假ニ各杭ヲ連結シ然ル後編枝ヲ
 交互ニ杭ノ前後ニ導キ之ヲ下方ニ壓シ付ケツ、編ミ上クヘシ

問 束柴被覆ハ如何ナル所ニ應用セラル、ヤ

答 階段ニ應用スルヲ適當トス

問 編條被覆ノ要領ヲ問フ

答 編條被覆ハ各編條ヲ端々相接シテ斜面内ニ竝列シ其杭ノ尖端ヲ
 斜面脚ニ打チ込ミテ抑駐ヲ施シ又ハ長キ鉤杭ヲ以テ之ヲ固定スル
 モノトス

問 保籃被覆ノ要領ヲ述ヘヨ

答 保籃ヲ以テ斜面ヲ被覆スルニハ斜面ノ傾度ニ準シ保籃ヲ變形シ
 テ配置シ其内部ニ土ヲ填實ス要スレハ杭ヲ保籃内ニ打チ入レ或ハ
 繫帶ヲ以テ積土下ニ打入セル杭、臥木ニ固定スルモノトス

第四節 編束物

問 束柴トハ何方

答 束柴トハ柴、雜樹、樹枝、竹等ヲ集メ圓柱狀ニ結束シタルモノヲ

謂フ

問 束柴ノ太サヲ問フ

答 使用上ノ便利ヲ顧慮シ長サ四米〇〇太サ〇米二五以上ノモノヲ作ラサルモノトス

問 編條トハ何カ

答 編條ハ太サ約〇米〇五長サハ編組ノ高サヨリ長キコト約〇米二〇ナル杭(木段ハ竹)ヲ緯トシ之ニ柴、割竹又ハ細竹ヲ編ミ著ケタル蒲狀ノモノヲ謂フ

問 編條ノ編組部ノ幅員ヲ問フ

答 使用上ノ便利ヲ顧慮シ長二米〇〇高サ一米〇〇以上ト爲サ、ルモノトス

問 保籃トハ何カ

答 保籃ハ編條ノ要領ニ準シ圓筒狀ニ作りタルモノヲ謂フ

問 保籃ノ太サヲ問フ

答 通常其外径ヲ約〇米六〇トシ編組ノ高サヲ約〇米八〇トス

問 束柴ヲ結束シ又ハ編條等ノ編枝ヲ杭ニ固定スルニ必要ナル材料ヲ問フ

答 鐵線(徑〇米〇〇二乃至〇米〇〇三)ヲ用フルヲ可トス而シテ葛及軟キ柴又ハ篠、刺竹、綱等モ亦之ニ代用スルコトヲ得ヘシ

問 編束物ニハ如何ナル材料カ適當ナルヤ

答 一、束柴ニ用フル柴ハ眞直ナル枝ヲ有シ下端ノ太サ約〇米〇四以下ナルモノヲ可トス
二、編條及保籃ノ編枝ニ用フルモノハ眞直且細長ニシテ小枝ナク下端ノ太サ約〇米〇二以下ナルヲ可トス

三、結束等ニ用フル蔓及柴ハ長サ約二ホ〇〇下端ノ太サ約〇米〇一乃至〇米〇二ニシテ振曲シ易キモノヲ擇ムヲ可トス

問 編束物ニ用フル柴等ヲ代採スルニ際シ作業各班ノ名稱及其任務ヲ述ヘヨ

答 伐採班、採集班及運搬班ニシテ其任務左ノ如シ

- 一、伐採班ハ鋸斧等ヲ以テ適當ノモノヲ伐採スルコト
- 二、採集班ハ用途ニ從ヒ分類シテ適宜ノ太サニ集束スルコト
- 三、運搬班ハ之ヲ編束物ノ工場ニ搬送スルコト

問 束柴ヲ製作スルニ方リ、必要ナル器具ノ名稱ヲ問フ

答 鉋、鋸、鐵線鉄及約棍、約繩トス

束柴架ノ構造ノ爲ニハ尙大槓ヲ要ス

問 束柴ヲ製作スルニ方リ其ノ要領ヲ説明セヨ

答 束柴ヲ作ルニハ柴ノ下端ト梢端トヲ交錯シ其細長キモノヲ外周ニ置キ太ク曲リタルモノヲ内部ニ包ミ小枝ハ之ヲ截除シテ内部ニ添加シ約繩ヲ以テ望ム所ノ太サニ緊約シ結束材料ヲ以テ之ヲ緊束スルモノトス

問 束柴結束ノ要領ヲ述ヘヨ

答 結束ハ約〇米三〇乃至〇米五〇ヲ隔テ、施スモノトス之ニ鐵線ヲ用フルトキハ豫メ束柴ノ周圍ヲ超ユルコト約〇米一〇（鐵線細キトキハ二回周ラスヘシ）ノ長サニ截リ之ヲ以テ束柴ヲ匝ラシ其兩端ヲ編リ合セ其端末ヲ束柴ノ内部ニ壓入スヘシ若シ蔓ヲ用フルトキハ其下端ヲ以テ上方ヨリ下方ニ束柴ノ中央ヲ貫キ其尖端約〇米一五ヲ束柴外ニ突出セシメ次テ蔓ヲ束柴ニ匝ラシ之ヲ緊約シ其

末端ヲ編リ合スヘシ

但シ各結束點ハ同一母線上ニアラシムルヲ可トス

問

編條ヲ作ルニ方リ必要ナル器具ノ名稱ヲ問フ

答 小槌、鉋、鐵線鉋及錐トス

問

編條ヲ作ル要領ヲ述ヘヨ

答 一、約〇米二五ヲ間シ一列ニ杭ヲ地上ニ植立(約〇米二五打込

ム)シテ假ニ其上端ヲ連結スルコト

二、編枝ヲ交互ニ杭ノ内外ニ誘導シ屢々之ヲ下方ニ壓迫シツ、
編組ヲ行フコト

三、總テ編枝ノ兩端ハ編條ノ同一面ニ在ラシメ成ルヘク其一端

ト雖端末杭ニアラシメサル如ク編組スルコト

四、端末杭ヲ匝ラスニハ少シク編枝ヲ撰編スルコトヲ要スルコ

ト

五、若シ編條ヲ強固ナラシメントセハ編組ノ一部ニ綯合チ行フ
コト

六、編組望ム高サニ達シタルトキハ鐵線又ハ蔓等ヲ以テ之ヲ杭
ニ固定スルコト

七、若シ鐵線ヲ缺クトキハ各杭間ノ上方及下方ニ於テ蔓ヲ以テ
數條ノ編枝ヲ結束スルコト

問

編組ヲ杭ニ固定スルニハ如何ニスルヤ

答 杭ノ一半ノ上部ト他ノ一半ノ下部トニ就テ一ハ編組ノ外縁ニ接
シ一ハ是ヨリ約〇米一五ヲ隔テ、一孔ヲ穿チテ鐵線ヲ通シ數條ノ
編枝ヲ杭ニ縛著スルモノトス

第六編 測圖學ノ部

第一章 地圖ノ見解

第一節 一般ノ解説

問 地圖トハ何カ

答 土地ノ表面及其表面上ニ現出スル總テノ物體ヲ某方法ニ依リ紙
上ニ描キタルモノヲ謂フ

問 地圖ノ効用ヲ問フ

答 身未タ其境ニ莅マス足未タ其地ヲ踏マスシテ已ニ其地理ヲ知り
其地形ヲ察シ得ルノミナラス之ヲ利用スレハ未知ノ土地ト雖途ニ
迷フコトナク以テ所望ノ地ニ達シ得ヘク以テ適當ノ進路ヲ發見
得ヘシ

問 地圖ハ如何ニシテ其方位ヲ示スヤ

答 地圖ハ一般ニ其ノ上方ヲ北ト爲ス若シ然ラサルトキハ矢ヲ畫テ其方位ヲ示シ置クモノトス

問 地圖ニ用フル尺度ハ何カ

答 *突テ用フルモノトス

問 海水準面トハ何カ

答 土地ノ高低ヲ算スル爲中等海水面ヲ以テ其基礎ト爲スヲ常トス之ヲ海水準面ト謂フ

問 水準面及比較表面トハ何カ

答 海水準面ニ平行ナル表面ヲ謂フ

問 標高トハ何カ

答 海水準面或ハ比較表面ヨリ地表面ノ某點ニ至ル距離ヲ謂フ

問 水準差トハ何カ

答 某ニ標高ノ差ニシテ又標高差トモ謂フ

問 土地ノ凹凸起伏ヲ紙上ニ顯ハスニハ如何ナル方法ニ由ルカ

答 一、土地ノ下方ニ通スル一ノ水準面ヲ假想シ此面上ニ地上ノ物體ヲ投影シ以テ其平面ヲ顯ス

二、土地ノ各點ヨリ水準面上ニ到ル垂直距離即チ標高ヲ圖上ニ記シ以テ其高低ヲ示ス

第二節 平面ニ關スル見解

問 梯尺トハ何カ

答 土地ハ廣大ナリ之ヲ地圖トシテ紙上ニ畫カンニハ寫眞ノ如ク縮小ナラシメ圖上各部ノ幅員距離等ハ實地ノ長サト或一定ノ比ヲ保

マシム此ノ比ヲ梯尺ト名ク

問 定式記號トハ何カ

答 梯尺ニ依テ描畫スル能ハサル小物體及諸物ノ類別ヲ表示スル爲
川フル符號ヲ謂フ

問 平面圖見解ノ爲熟知スヘキ要件ヲ問フ

答 梯尺、定式記號及註記ノ三者トス

問 副記號トハ何カ

答 神社佛閣等ノ如キ主要ナル家屋ノ類別ヲ明ニスル爲ノ記號ヲ謂
フ

問 指示記號トハ何カ

答 山陵、城址等地面ノ名稱ヲ示ス記號ヲ謂フ
註記トハ何カ

答 註記ハ圖形ヲ以テ指示スヘカラサル地圖ノ意義ヲ解釋スルモノ
ニシテ文字ヲ以テス

例ヘハ村落ノ名稱、道路ノ關係等ノ如シ

問 註記ヲ爲スニ方リ注意スヘキ諸件ヲ問フ

答 一、正確ナルコト

二、見易キコト

三、見出シ易キコト

四、見誤ナカラシムルコト

問 註記ヲ正確ナラシムルニハ如何ニスルヤ

答 字體ヲ正シクシ字畫ニ誤ナカラシムルコト

問 註記ヲシテ見易カラシムルニハ如何ニスルヤ

答 圖ヲ披キタルマ、之ヲ動カスコトナク讀ミ得ル如ク書スヘシ

即チ

- 一、一般ニ文字ハ圖廓ノ下邊ニ並行或ハ直立スル如ク列ヘ適當ニ相接近セシムルコト
- 二、道路河川等ノ如キ延長ナルモノニアリテハ物體ノ方向ニ並行ニ列ヘ文字ヲ之ニ準シテ相離隔シ字ノ傾キハ其物ニ直立或ハ並行ニ書スルコト
- 三、字傾ハ常ニ圖廓ノ下邊ト四十五度以上ノ傾斜ヲ有セシムルコト

問

註記ヲシテ見出シ易カラシムルニハ如何ニスルヤ
 答 物體ニ應シテ文字ノ大小ヲ異ニシ相離レタル文字ト雖其區別ヲナシ得セシメ且其離隔スル文字ニ連繫ヲ保タシムルコト
 例ハハ河川ノ註記ニ其一文字ヲ河ノ中ニ記スレハ他ノ文字モ總テ

同様ニ河ノ中ニ記シ字傾ヲ同一ニスルカ如シ

問

註記ヲシテ見誤ナカラシムルニハ如何ニスルヤ

答 註記スヘキ物體ニ沿ヒ其右側或ハ上方ニ記入ス要スレハ記號ヲ

截リテ註記スルコト

例ハハ水平曲線ノ標高ヲ註記シ或ハ市街内ニ於ケル神社佛閣ヲ記スルニハ此註記ノ部分丈記號ヲ省クカ如シ

問

梯尺ニ用フル比ハ如何ナルモノヲ使用スルヤ

答 任意ノ値ヲ採リ得ヘシト雖計算ニ便ナラシメンカ爲分子チ一トシ分母ハ一、二、五、十、百、千、萬等ノ倍數ヲ可トス

問

複歩ノ梯尺トハ何方例ヲ以テ之ヲ示セ

答 今百米突ノ距離ニ於テ七十複歩ヲ得タリトシ一萬分一ノ梯尺ヲ作ラントスレハ千米突ハ則チ七百複歩ニシテ十叻知米突ニ應シ

千復歩ハ十四冊知米突ニトナルヲ以テ此比ニ因リ恰モ尋常梯尺ノ如ク作ルコトヲ得之ヲ復歩ノ梯尺ト謂フ

第三節 水準ニ關スル見解

問 土地ノ高低即チ水準ヲ顯ハヌ爲軍用地圖ニ於テ專ラ採用セラル、モノハ何カ

答 左ノ二種トス

- 一、水平曲線ヲ以テスルモノ
- 二、量濬ヲ以テスルモノ

問 水平曲線トハ何カ及之ヲ採用スル理由ヲ述ヘヨ

答 地表面ノ各點ヨリ比較表面上ニ致ル高サヲ知リ標高ヲ以テ之ヲ圖ニ示サハ彼此數點ニ於ケル高低ノ比較ヲ爲シ得ヘシト雖一般ノ地形ヲ察センニハ無數ノ標高ヲ要ス然ルニ斯ル多數ノ標高ヲ圖ニ

記入セハ之ヲ視ルニ煩ル煩雜ニシテ明瞭ヲ害ス此弊ヲ除カンニハ標高ノ相等シキ點ヲ求メ其相接近スルモノヲ連合セハ一ノ曲線ヲ成ス之ヲ水平曲線ト稱ス

問 眞等距離トハ何カ

答 各水平而得ノ距離ハ總テ同一ナルカ故ニ之ヲ眞等距離ト謂フ

問 圖上等距離トハ何カ

答 眞等距離ヲ梯尺ノ比ニ應シ變シタルモノヲ圖上等距離ト謂フ

問 同一等距離ニ於ケル水平曲線ノ間隔ハ傾斜ノ緩急

ニ由リテ差アリヤ

答 然リ其傾斜愈々急ナルハ水平曲線ノ間隔ハ益々減少スルモノト

問 首曲線トハ何カ

答 等距離ニ應スル曲線ヲ謂フ

問 首曲線間ニ挿入スル各種ノ曲線ヲ説明セヨ

答 一、地形ヲ明示スル爲其間ニ挿入スルモノヲ間曲線ト謂フ
二、更ニ其間ニ挿入スルモノヲ助曲線ト謂フ

問 計曲線トハ何カ

答 高低大ナル數ヲ計算シ易カラシムル爲ニ通常首曲線數條毎ニ
其一ヲ太クス之ヲ計曲線ト謂フ

問 各曲線ハ如何ナル要領ニ畫クヤ

答 一、首曲線ハ細キ實線
二、間曲線ハ長キ點線
三、助曲線ハ至細ノ尋常點線
四、計曲線ハ太キ實線

問 量滲ヲ以テ地面ノ高低ヲ顯ハス方法ヲ述ヘヨ

答 直上ヨリ來ル光線、各傾斜ノ異レル平面ヲ照ストキハ其受クル
光量水平ナルモノ最モ多ク傾斜愈々急ナレハ益々減少スルト謂フ
理ニ基キ斜面ニ蔭影ヲ施シ以テ地形ノ變化ヲ示スモノトス

問 量滲ニ於テ同一傾斜ノ面ハ其對スル方位ノ如何ニ

拘ラス同一ノ蔭影ヲ施スハ何故ナルヤ

答 此光線ハ相並行シテ垂直ニ水平面上ニ射照スルモノト假定スル
ヲ以テナリ

問 量滲式ノ用途ヲ問フ

答 此式ハ地面小局部ノ高低ヲ明示スル地圖ニハ適セサルモ地形全
般ノ起伏ハ容易ニ見解シ得ルヲ以テ小ナル梯尺ノ地圖ニ適スルモ
ノトス

問 量滲ノ記載法ヲ説明セヨ

答 一、量滲ハ傾斜ノ方向ニ從ヒ上方ヨリ下方ニ向ヒ假描セル各水
平曲線間ニ之ニ直交スル如ク描畫ス故ニ兩水平曲線並行スル
トキハ量滲亦並行スト雖曲線並行ナラサルカ或ハ屈曲スルト
キハ量滲亦並行セサルモノトス

二、傾斜ノ急ナルニ從ヒ漸次量滲ノ長サ及其間隔ヲ減シテ其太
サヲ増スコト

問 相隣シテ假描セル各水平曲線間ノ量滲ハ如何ニシ
テ畫クヤ

答 相互ノ延伸方向ニ畫クコトナク他帶ノモノ、間ニ此帶ノモノヲ
向ハシムル如クスルモノトス

第二章 地圖ノ模寫

問 地圖ノ模寫ヲ少時間ニ行ハンニハ如何ナル手段ニ
依ルヤ

答 勉メテ地物ヲ没却スルコトナク記號ノ數ヲ少クシ或ハ道路、水
流、地類界等ノ屈曲ヲ一々原圖ニ準ハスシテ唯大體ニ於テ其方向
ヲ合一セシムル等ノ手段ヲ取ルモノトス

問 方眼ヲ編成スル方法ヲ述ベヨ

答 一、原圖ノ中央ニ亘リテ南北ニ通スル一細線ヲ劃シ梯尺ニ應シ
テ適宜ニ之ヲ區分スルコト

例ヘハ五千分一ノ圖ニ在リテハ二冊知米突毎ニ二萬分一ノ圖
ニ在リテハ五密理米突毎ニ區分スルカ如シ

二、各分點ニ通シテ原線ニ直交スル細線ナル並行線ヲ作ルコト
三、原線ノ左右ニ原線ノ分畫ト同シ間隔ヲ取リテ之ニ並行線ヲ

作り方眼ヲ完フスルコト

四、方眼ノ縁ニ沿フテ左ヨリ右ニ及上ヨリ下ニ1、2、3、……ノ番號ヲ附スルコト

問 伸寫圖及縮寫圖トハ何方

答 寫圖ノ方眼ヲ原圖ヨリ大ニスルトキハ伸寫圖ト稱シ之反スルトキハ縮寫圖ト稱ス

問 寫圖ノ等距離原圖ノ等距離ト異ナルトキハ如何ニ曲線ヲ挿入スルヤ

答 原圖ノ等距離五米突ニシテ寫圖ノ等距離二米突ナルトキハ原圖ノ二曲線ハ寫圖ノ五曲線ニ相當ス故ニ原圖ノ間隔一條ノ曲線即チ10、20、……等ノ曲線ヲ描寫シ其中間ニ四個ノ曲線ヲ挿入スルモノトス

問 寫圖ノ順序ヲ述ヘヨ

答 寫圖ハ一般ニ左ノ順序ニ遵フナ良シトス

- 一、方眼ノ編成
- 二、道路、河川等延長ナル地物
- 三、村落、森林等諸地物
- 四、水平曲線
- 五、註記
- 六、方位、梯尺、題號、年月日、官姓名

第三章 地圖ノ應用

第一節 圖上ニ於ケル練習

問 圖上ニ於ケル練習トハ如何ナル事ヲ研究スルモノナルヤ

答 梯尺及兩脚規ニ依リ又ハ尺度或ハ目測ニ依リ距離ヲ測定シ曲線ノ狀態、定式記號ノ如何ニ依リテ傾斜ノ緩急隆蔽ノ程度ヲ察シ圖上二點ノ比高、通視ノ如何等ヲ研究スルモノトス

問 断面圖ノ用途ヲ問フ

答 断面圖ハ某方向ニ從フ所ノ土地ヲ研究シ或ハ某地點ノ關係位置ヲ判定スル等圖上ノ問題ヲ解スルニ有用ナルモノナリ

問 直断面及曲断面トハ何カ

答 断面ハ地面ノ垂直面トノ交會ヲ現スモノニシテ直線ニ從テ垂直ニ截斷スルモノヲ直断面ト云ヒ否ラサルモノヲ曲断面ト謂フ

問 真断面トハ何カ

答 並行線ノ間隔、圖上等距離ト同一ナルトキハ此断面ヲ真断面ト謂フ

問 過高断面トハ何カ

答 並行線ノ間隔圖上等距離ヨリ大ナルトキハ此断面ヲ過高断面ト謂フ

問 過低断面トハ何カ

答 並行線ノ間隔圖上等距離ヨリ小ナルトキハ此断面ヲ過低断面ト謂フ

第二節 現地ニ於ケル練習

問 現地ニ於テ練習スヘキ主ナル事項ヲ問フ

答 一、地圖ノ方位ヲ現地ニ一致セシメ之ニ由リテ自己ノ位置ヲ迅速ニ決定スルコト
二、圖上ニ於ケル地區地物描畫ノ程度ニ注意シ殊ニ梯尺ニ應シテ省略セル碎部ノ種類及大小ヲ考究スルコト

三、圖上ニ於テ豫メ測定セル距離廣狹等ヲ現地ト比較シ土地ノ起伏傾斜ノ景況ヲ地上ニ對照スルコト

四、圖上ニ於テ知ルコトヲ得サル土質、水流及道路ノ性質、樹木ノ大小障礙物ノ程度、建築物ノ景況等ヲ實査スルコト

問 圖上ノ地形ヲ識ルニ最必要ナル事ハ何カ

答 曲線ノ形狀ヲ觀察スルニアリ

問 曲線ノ形狀ニ依リ地形ノ識別ヲ爲スニ方リ普通準據スヘキ各種ノ要件ヲ述ヘヨ

- 答 一、山背ハ曲線ノ形狀下方ニ尖リテ上方ニ至ルニ隨ヒ漸々擴カ
- リ遂ニ圓クナル其傾斜ハ下方ニ急ニ上方ニ緩ナルモノトス
- 二、谷ノ傾斜ハ上方ニ急ニ下方ニ緩ニシテ曲線ノ形狀ハ山背ト
- 等シク上方ニ擴カリ下ルニ隨ヒテ狹キモノトス

三、曲線ノ形狀ハ一々之カ標高ヲ求メサルモ大凡其何レカ高キカヲ察シ得ヘシ水流ノ方向、水田ノ位置ノ如キ亦此觀察ヲ爲スニ最良ナル標準トナルモノトス

四、谷底廣キトキハ兩岸ノ曲線ヨリ方向ヲ急ニ變シ否ラサルモノハ漸々ニ變スルモノトス

五、曲線ハ大體ノ地勢ニ應セシメ小起伏チ一々現ハスヘキモノニアラサレハ之ニ密着スル地物ノ種類ヲ參考スルコト必要ナルモノトス

第四章 測圖

第一節 一般ノ要領

問 測圖トハ如何

答 地形ノ状態ヲ圖紙上ニ描畫スルノ術ニシテ之カ爲先ツ平面測量

及水準測量ヲ行ヒ其結果ヲ綜合シテ之ヲ圖紙上ニ表示スルモノヲ謂フ

問 平面測量トハ何カ

答 地上諸物體ノ平面形ヲ比較表面上ニ投影スル作業ヲ謂フ

問 平面測量法ノ要領ヲ問フ

- 答 一、平面測量ニ於テ地上諸點ノ水平位置ヲ圖紙上ニ寫サンニハ先ツ地上任意ノ一點ヲ取り之ヲ地上適當ノ位置ニ寫シ以テ原點トスルコト
- 二、此點ヨリ諸點ニ到ル方向及距離ヲ測リ梯尺ニ應シ之ヲ圖上ニ定ムルコト
- 三、此距離ハ測鎖ヲ以テ量リ或ハ步測目測ヲ以テスルコト
- 四、方向ハ直接ニ方向線ヲ圖上ニ定メ或ハ一定セル方位ニ關ス

ル角度ヲ測リ以テ圖上ニ之ヲ定ムルコト

問 水準測量トハ如何

答 比較表面上ニ於ケル地上諸物體ノ高サヲ測リ土地ノ高低起伏ヲ顯ハス作業ヲ謂フ

問 水準測量ノ方法ヲ問フ

答 直接水準測量、間接水準測量ノ二種アリ

- 一、直接水準測量トハ地上諸點ノ高サ即チ標高ヲ定ムルニ方リ直接ニ原點或ハ他ノ既知點ヨリ起リ相隣接セル兩點ノ水準差ヲ逐次測量スルヲ謂フ
- 二、間接水準測量トハ兩點ノ水平距離及傾斜分數ヲ測リ計算ニ因リ測量スルモノヲ謂フ

第二節 目算測圖

問 目算測量トハ何カ

答 掌圖及略圖ノ測量法ニシテ取簡ナル器械ヲ用ヒ距離ハ専ラ步測
或ハ目測シ最迅速ニ一地部ヲ測圖スル方法ナリ其梯尺ノ如キハ全
ク其使用ノ目的ニ依テ定ムヘキモノニシテ普通五千分一乃至二萬
分一ヲ用フルモノトス

問 目算測圖ニ必要ナル器械及材料ヲ述ヘヨ

- 答 一、携帶圖板(護謄紐付) 一
 二、鉗子附小磁石 一
 三、覆埵止米突尺 一
 四、圖紙(普通方眼紙) 一
 五、鉛筆 若干
 六、小刀 一

七、字消護謄

一

問 目算測圖ヲ行フニ方リ必要ナル準備ヲ問フ

- 答 一、圖紙ヲ護謄紐又ハ糊ヲ以テ其四隅ヲ携帶圖板ニ定著スルコ
ト
 二、圖板ノ開口ヲ身體ニ向ケタルトキハ其前方ニ圖紙ノ頭部ノ
在ル如クスルコト
 三、小磁石ヲ圖上頭部ノ一端ニ置キ鉗子ニテ圖板ト圖紙トヲ挿
ムコト
 四、測圖中磁針ノ位置ヲ變セサラシムル爲小磁石ノ縁邊ヲ鉛筆
ニテ畫シ且磁針ノ方位ヲ圖紙上ニ描畫シ置クコト
 五、此測圖ニ於テハ専ラ步測ヲ用フルヲ以テ覆埵止米突尺ニハ
梯尺ニ應スル覆埵ノ梯尺ヲ作り僅ニ尺ノ目盛ヲ現ハシテ糊著

シ置ケコト

問 圖根測量及圖根點トハ如何

答 圖根測量トハ地上稍遠隔セル必要ナル諸點ノ位置ヲ圖紙上ニ寫シ恰モ網眼ヲ以テ測圖全體ヲ掩フ如クシ碎部測量ノ基礎ヲ爲ス作業ヲ謂フ而シテ此等ノ點ヲ總テ圖根點ト謂フ

問 圖根測量ハ成ルヘク精密ナルヲ要スル理由ヲ述ヘ

答 此測量ニ誤アルトキハ延テ碎部測量ニ其誤差ヲ及ホスモノナレハナリ

問 圖根測量ヲ行フニ方リ其ノ要領ヲ説明セヨ

答 一、先ツ測圖地ノ中央ニ亘リ道路或ハ河岸ニ沿フ一屈折線ヲ測定シ以テ基線ト爲スコト

二、之ヲ某梯尺ニ依リ圖紙上ニ寫スコト

三、同時ニ基線ヨリ左右稍遠隔セル目標物體例ヘハ塔或ハ樹木ノ頂等ヲ視視シ之ニ至ル方向線ヲ畫ク

四、其交會ニ依テ地上ノ位置ヲ圖上ニ定メ以テ網眼ヲ完成スルコト

問 出行點トハ何カ

答 基線測量ヲ行フ第一ノ點ヲ出行點、一ニ又原點ト稱ス

問 出行點(原點)ヲ圖紙上ニ標示スルニハ如何ニス

ルヤ

答 磁針ノ方位ヲ見テ是ヨリ測圖セントスル土地ノ一般ノ方向ト梯尺トヲ案シ全測圖地ヲシテ圖紙ノ中央ニ在ラシムル如ク適當ノ位置ニ鉛筆ニテ一點ヲ標スルモノトス

問 道線法ヲ説明セヨ

答 原點ヨリ起リテ第二點ヲ定メシニハ其原點ニ關スル方位ト距離トヲ知ラサルヘカラス斯ク方向位置ト距離トヲ測リツ、第二點ヨリ第三點ニ第三點ヨリ第四點ニ逐次測量ヲ進歩セシム之ヲ道線法ト謂フ

問 方位ヲ定メ圖紙上ニ方向線ヲ畫ク方法ヲ述ヘヨ

答 一、圖板ハ磁針ニ依リ各測站ニ於テ常ニ同一ノ方向ヲ取ラシムルコト
二、左手ニテ圖板ヲ水平ニ支エ右手ニテ覆埴止米突尺ノ右縁ノ一端ヲ圖上ノ已知點ニ沿ハシメ其他端ヲシテ略地上ノ規點ニ向フ如クスルコト
三、鉛筆ノ尖ヲ圖上ノ已知點ニ直立シ右手ノ拇指ト中指トノ

指尖ニテ輕ク挿ミ食指ヲ其頂ニ當ツルコト
四、左眼ヲ閉チ右眼ヲ鉛筆ノ尖リニ注キ鉛筆ハ尺ノ前縁ヲ蔽ヒ同時ニ地上ノ規點ヲ掩フ如ク尺ノ位置ヲ變スルコト
五、磁針方位ノ正シキヲ認メ鉛筆ニテ尺ノ縁ニ沿フテ輕ク一線ヲ畫スルコト

問 作業上磁針ニ就テノ注意ヲ問フ

答 磁針ハ鐵氣ニ近クハ其方向ニ吸引セラル、モノナレハ鐵道或ハ鐵橋ノ附近ニ於テハ作業ヲ爲サルヲ可トス

問 前方交會法トハ何カ

答 目標物體ノ位置ハ必ス三方向ヨリスル方向線ノ交會ニ依テ決定スルモノトス之ヲ前方交會法ト謂フ

問 後方交會法トハ何カ

答 基線測量ト同時ニ目標點ヲ規視シ第一次ノ網眼ヲ編成シタル後
 更ニ尙圖根點ヲ擴張セント欲セハ既ニ圖上ニ決定シアル目標點ニ
 由テス即チ或ル新點ヲ圖上ニ定メンニハ其點ニ位置シ剛板ノ方位
 ナ定メタル後剛板上ニアル已知目標點ト地上ノ同點トニ由リ新點ニ
 方向線ヲ劃シ其交會ニ依テ決定シ得ヘシ而シテ此已知目標點ハ三
 點アルチ可トス之レチ後方交會法ト謂フ

問 原點ニ對シ各圖根點ノ水準差ヲ求メ其標高ヲ定ム
 ルニハ如何ナル方法ニ由ルヤ

答 左ノ三種ノ一チ以テス

- 一、目測
- 二、眼高
- 三、腕長ノ適用

問 目測ニ由リ水準差ヲ求ムル場合ヲ問フ

答 唯僅少ノ水準差ナルトキ應用スルモノトス

問 眼高トハ如何其方法ヲ説明セヨ

答 眼高トハ測手直立シタルトキノ眼ト同高ノ點ヲ求ムルチ謂フ其
 方法今Aニ直立シテ剛板ヲ眼ノ高サニ上ク之ヲ水平ニシ其面ヲ延
 伸セハ斜面ノBニ會ス次ニBニ至リ同様ニシテCヲ得タリトセ
 ヲ、斯クセハCハAヨリ高キコト測手ノ眼高ノ二倍ナルコトヲ知
 ル今眼高ヲ一米五十ト假定セハAトCトノ水準差ハ即三米突ナル
 カ如シ

問 腕長ノ適用トハ何カ及其操作ヲ述ヘヨ

答 腕長ノ適用トハ各自ノ腕長ヲ測リテ之ヲ百分シ其一分ヲ一分畫
 トシテ所用ノ鉛筆ニ之ヲ刻ミ置キ之ニ由テ物體ノ高サヲ測ルニ在

其操作左ノ如シ

腕長ヲ決定スルニハ次ノ如クス即チ等距離ナル五線ヲ以テ壁上ニ
眼目ノ上方四米突ノ高サヲ標ス次ニ複埒止米突尺ヲ取リ

例ヘハ四珊知米突ノ所ニ拇指ノ爪ヲ置き而シテ拇指ノ爪、眼目ト
水平ナル如ク腕ヲ延シテ此四珊知米突ヲシテ四米突ノ眼高ニ應ス
ルマテ壁ヨリ漸次ニ遠隔ス然ルトキ壁ニ至ル距離ヲ測レハ腕長ハ
距離ノ百分ノ一トス

問 腕長ヲ適用スルニ方リ其操作上常ニ肝要ナル状態

トハ如何ナルコトカ

答 一、眼目ト拇指ノ頭ニ通スル視線ハ水平ナルコト

二、腕長即チ眼目ト拇指トノ間隔ハ一定ナルコト

問 圖根測量ニ於テ基線選定ノ要旨ヲ問フ

答 一、基線ハ成ルヘク測圖地ノ中央ニシテ一般ノ方向、銳角ニ屈

折セサルコト

二、前後兩測站ハ互ニ通視シ得ルコト

三、各測站間ハ步測ヲ妨ケサルコト

四、各測站ノ側方ニハ多クノ目標點ヲ有スルコト

五、各測站ハ著名ナル點例ヘハ道路ノ交叉點、橋梁ノ入口、耕
作地ノ境界等ノ近傍ナルコト

問 目標選定ノ要旨ヲ述ヘヨ

答 一、諸方向ヨリ明瞭ニ規視シ得誤認ノ虞ナキコト

例ヘハ電信柱ハ明瞭ニ規視シ得ルモ甲乙相混シ易キカ故不
可ナルカ如シ

二、各測站ヨリ略同一ノ形状ニ見ユルコト

例ヘハ潤葉樹ノ如キハ其頂ヲ站視セスシテ大枝ノ交叉點ヲ站視スルカ如シ

問 碎部測量トハ何カ

答 碎部測量トハ圖根測量ニ於テ編成シタル網眼内ニアル地上ノ諸物體ヲ其網眼ニ依リ目測ヲ以テ圖上ニ描畫シ測圖ヲ完成スル作業ヲ謂フ

問 碎部測量ハ如何ナル部分ヨリ施行スルヤ其適當ナル方法ヲ問フ

答 碎部測量ハ隨意ノ部分ヨリ施行シ得ヘシト雖同一地ヲ再三通過セザル爲一局部ヲ完成シタル後他ニ移リ一側ヨリ順次ニ完成スヘシ之カ爲基線左右ノ土地ニシテ基線上ヨリ目測シ得ル所ハ其測量

ト同時ニ碎部ヲ描畫シ置クヲ可トス

問 補助圖根點ノ測定ハ如何ナル方法ニ由ルヤ

答 消線法或ハ後方交會法ヲ用フルモノトス

問 總テ交會法ニ於ケル方向線ノ交會角ハ幾何ヲ適當トスルヤ

答 三十度以上ナルヲ可トス

第五章 目算測圖ノ應用

問 局地測圖トハ如何

答 目算測量ノ要領ニ由リ陣地偵察略圖、宿營地略圖等一局部ヲ測圖スルヲ局地測圖ト稱ス

問 路上測圖トハ如何

答 道路及其附近其他河川等延長ナル地部ヲ測圖スルヲ路上測圖ト

稱ス

問 路上測圖ニ於テ原點ノ位置ハ如何ナル注意ヲ以テ定ムルヤ

答 先ツ測圖セントスル道路一般ノ方向ヲ考ヘ圖紙ノ中央ニ道路ノ位置スル如ク方位ヲ定メ原點ヲシテ圖ノ上部適當ノ所ニ在ラシムル如クスルヲ要ス

問 測圖中著シク道路ノ方向ヲ變シ道路圖紙ノ一方ニ偏スル爲新方向ヲ取り新基點ヲ設ケタルトキハ如何ニスルヤ

答 符合ヲ記シテ其接合部ヲ標示シ置クモノトス

問 路上測圖ニ於テ断面圖ハ如何ナル場合ニ記載スルモノナルヤ

答 道路特ニ隘路ノ部等ノ景況ヲ明示スル爲記載スルモノトス

問 路上測圖ニ於テ断面圖ノ作法ヲ問フ

- 答 一、水平線ヲ設ケ要スル断面ノ長サ或ハ幅ヲ某梯尺ニテ取ルコト
- 二、水平線ニ直角線ヲ設ケ之ニ水平線ト同梯尺ニテ高低ヲ示スコト
- 三、水平距離某米突毎ノ高低ヲ測リ水平線ヨリ某尺度ヲ表ハスコト
- 四、斯クテ設ケタル各點ヲ連接スルコト

第六章 附 錄

第一節 地形ノ識別

問 地形ノ識別ヲ明ニスル爲ノ區分ヲ述ヘヨ

答 一、陸部即チ陸地表面上ニ在ル水ノ形状ニ依ル識別
 二、水部即チ地球表面上ニ在ル水ノ形状ニ依ル識別
 三、地相即チ土質及地物ニ依ル識別

問 陸部ハ如何ナルモノヨリ合成スルヤ

答 陸部ハ大陸タルト島タルトナ間ハス一般ニ平地、高地、凹地ヨリ合成ス

問 平地ニ屬スル各種ノ名稱ヲ述ヘヨ

答 一、平地ハ地表面ノ高低微弱ナル所ノ總稱ニシテ其廣潤ナルモノハ之ヲ平原ト稱ス
 二、眞高ノ大小ニヨリ高原、低原ノ別アリ
 三、平地ノ緩徐ナル傾斜ヲ起伏地或ハ波狀地ト稱スル
 四、展望ノ如何ニヨリテ開潤地、又ハ陸蔽地ト稱ス

五、交通ノ便否ニヨリテ綿亘地又ハ斷絶地ト稱ス

問 高地ニ屬スルモノ、各種ノ名稱ヲ述ヘヨ

答 一、高地ハ附近ノ平地ヨリ隆起セル地部ノ總稱ニシテ其大小ニ由リ丘陵、丘阜、山等ノ別アリ
 二、高地ハ之ヲ巔頂、山腹、斜面ノ三部ニ分ツコト
 三、高地ノ凸稜部ヲ稱シテ一般ニ山背ト謂ヒ其分水界ヲ凹線ト謂フ

四、二個ノ高地其中腹ニ於テ交ル所ヲ鞍部ト云フ

問 高地ノ斜面ハ其形状ニ由リ如何ナル名稱ヲ附セラ

答 一、等齊斜面
 二、不齊斜面

- 三、凸形斜面
- 四、凹形斜面
- 五、階段斜面

問 凹地ニ屬スルモノ、各種ノ名稱ヲ述ヘヨ

- 答
- 一、附近ノ地ヨリ低キ土地ヲ凹地ト謂フ
 - 二、凹地ハ一般ニ之ヲ谷ト稱シ其形狀ニヨリ溪盤谷、地隙ト稱ス
 - 三、谷ノ縦方向ニ於ケル最低線ヲ凹線ト稱ス

問 水部ノ部別ヲ問フ

答 陸水、海水ノ二部ニ分ツ

問 陸水ノ區分ヲ問フ

答 流水及靜水ニ區分ス

問 流水ニ屬スルモノ、各種ノ名稱ヲ述ヘヨ

- 答
- 一、地下ノ水湧出スル所ヲ泉ト稱ス
 - 二、水ハ泉ヨリ發シ土地ノ傾斜ニ從ヒテ下流シ其漸ク水蝕ヲ受ケタル凹所ニ流通スル部ヲ小川ト謂フ
 - 三、下リテ稍大ナルモノヲ川又河ト謂ヒ其廣大ナルモノヲ大河ト稱ス
 - 四、河ニハ本流、支流、潮流等ノ別アリ
 - 五、溝渠、水道、運河等ノ如キ人爲ニ由リテ成ルモノヲ人工流水ト稱ス
 - 六、河床内ヲ流ル、水ヲ河水ト稱ス
 - 七、河水ハ水量ノ増減ニヨリテ高水、平水、低水ト名ツケ高漲瀰滿スルモノヲ洪水ト稱ス

問

河川ノ横断面ニ於ケル各部ノ名稱ヲ問フ

答 一、河床

二、河底

三、河岸

四、河床幅

五、河床深

六、河幅

七、水深

八、凹線

九、流線

十、廠制岸

問

静水トハ何カ

答 水ノ流レスシテ滯溜スルモノヲ謂フ即チ滯池、湖等ナリ

問 灣トハ如何

答 海ノ陸地内ニ灣入スル所ヲ謂フ

問 港トハ何カ

答 灣ノ小ニシテ船舶ノ碇泊スル所ヲ謂フ

問 海峡トハ何カ

答 海水ノ兩陸地間ニアル狭キ場所ヲ謂フ

問 地相ノ土質ニ從フ區別ヲ問フ

答 一、砂地

二、砂礫地

三、粘土地

四、濕地

問 地相ノ植物ニ從テ區別ヲ問フ

答 一、荒地

二、草地

三、森林

問 耕作地トハ何方

答 開拓シテ穀物、蔬菜、果實ヲ培養スル土地ノ總稱ニシテ園、畑、田ノ別アリ

問 住民地ノ家屋ノ集團ノ多少ニ由ル區別ヲ問フ

答 一、獨立家屋

二、集團家屋

三、村落

四、町

五、市街

問 交通路ノ種別ヲ問フ

答 交通路ハ陸上交通路、水上交通路ノ二種ニ分ツ

問 陸上交通路ニ屬スルモノニ就キ各種ノ名稱ヲ述ヘ

ヨ

答 一、陸上交通路ハ道路及鐵道ノ二種ニ分ツ

二、道路ハ其幅員及連絡スル地方ノ景況ニヨリ國道、縣道、里道

小徑ニ分ツ

三、小徑ニハ騎小徑、歩小徑ノ別アリ

四、一般ニ横斷面形ニ從テ區別スルトキハ地平道、凸道、凹道、

山腹道ト稱ス

五、鐵道ニハ汽車鐵道、輕便鐵道、電氣鐵道、馬車鐵道等ノ別アリ

問 水上交通路トハ何カ

答 其主ナル者ハ海洋ニシテ船舶ヲ以テス而シテ渡河ノ爲ニハ徒
涉、渡船、橋梁等ニ依ルモノトス

問 通信線トハ何カ

答 電力ニ依リテ通信スルモノニシテ電信線、電話線等アリ

第二節 方位定法ノ簡法

問 方位ヲ認識スルノ必要ナル理由ヲ問フ

答 野外ニ於テ自己ノ位置スル地點ヲ精確ニ判斷シ且目撃セル地部
ノ位置及方向ヲ認識スルハ軍隊ノ指揮上並偵察實行ニ際シ最重要
ナルコトナレハナリ殊ニ夜間動作ニ於テ然リトス

問 方位ヲ知ル各種ノ方法ヲ問フ

答 磁石、太陽、時計、月、北極星、木理、蘚苔、地圖等ニ依ルモ
ノトス

問 磁石ニ由テ方位ヲ知ルノ方法ヲ問フ

答 磁石ヲ水平ニ保タハ青色ノ針端ノ指ス方向ハ北ナリ

問 太陽ニ依テ方位ヲ知ルノ方法ヲ問フ

答 太陽ハ午前六時東ニ在リ午前九時東南、正午十二時南、午後三
時西南、午後六時西ニ位置スルモノトス

問 時計ニ依テ方位ヲ知ル方法ヲ述ヘヨ

答 時計ヲ水平ニ持テ垂直ナル物體ノ影ト短針ノ影トヲ一致セシメ
短針ト十二時ト記シタル文字ノ間ヲ等分シタル線ハ即北ナリ

問 月ニ依テ方位ヲ知ルノ方法ヲ述ヘヨ

答 一、滿月ノトキニ在リテハ午前六時西、夜半南、午後六時東ニ

位置スルモノトス

二、上弦(半月右上缺)ノトキニ在リテハ午後六時南、夜半四ニ位置スルモノトス

三、下弦(半月左下缺)ノトキニ在リテハ夜半東、午前六時南ニ位置スルモノトス

問 北極星ニ依リテ方位ヲ知ルノ方法ヲ問フ

答 常ニ北方ニ位置スルモノトス

問 木理及蘚苔等ニ依リテ方位ヲ知ルノ方法ヲ述ヘヨ

答 一、木ノ切口ヲ見木理ノ疎ナルハ南ニシテ密ナル方ハ北ナリ

二、樹木及道標等ニ苔類ノ發生スルハ通常北ナリ

問 樹枝ニ依リテ方位ヲ知ルノ方法ヲ述ヘヨ

答 一、樹枝ノ繁ル方ハ多ク南ナリ

二、其地方ノ恒風ヲ知ルトキハ樹木樹枝等ノ一方ニ偏シテ風曲

スルニ依リテ方位ヲ知ルコトヲ得

三、海岸ノ樹木ハ多ク海ニ反對スル方向ニ枝ノ屈曲スルモノナ